

官報

號外 昭和十年三月三日

○第六十七回 帝國議會衆議院議事速記錄第二十一號

昭和十年三月二日(土曜日)

午後二時十分開議

議事日程 第二十號

昭和十年三月二日

午後一時開議

第一 朝鮮事業公債法中改正法律案 (政府提出) 第一讀會

第二 札幌軌道株式會社及矢作水力株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案 (政府提出) 第一讀會

第三 宮崎縣營鐵道及軌道並ニ大隅鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第四 自動車交通事業法中改正法律案 (吉川吉郎兵衛君外七名提出) 第一讀會

第五 舊獨逸膠州租借地還付ニ關スル條約實施ニ伴フ損失ノ補償ニ關スル法律案(久山知之君外二名提出) 第一讀會

第六 五大都市ニ特別市制實施ニ關スル法律案(中井一夫君外四名提出) 第一讀會

官報號外 昭和十年三月三日 衆議院議事速記錄第二十一號 議長ノ報告

第七 五大都市ニ特別市制實施ニ關スル法律案(小山松壽君外六名提出) 第一讀會

第八 百貨店法案(眞鍋儀十君外三名提出) 第一讀會

第九 百貨店法案(三上英雄君外一名提出) 第一讀會

第十 傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乘車船優遇ニ關スル法律案(吉川吉郎兵衛君外四名提出) 第一讀會

第十一 大正九年法律第五十六號中改正法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)(東武君外五名提出) 第一讀會

第十二 大正九年法律第五十六號中改正法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)(山本厚三君外四名提出) 第一讀會

第十三 登錄稅法中改正法律案(金光庸夫君外三名提出) 第一讀會

第十四 刑事判決宣告猶豫ニ關スル法律案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會

第十五 小作調停法中改正法律案(藤田若水君外四名提出) 第一讀會

第十六 衛生組合法案(田中祐四郎君外二名提出) 第一讀會

第十七 衛生組合法案(鷲野米太郎君外五名提出) 第一讀會

第十八 衛生組合法案(野田文一郎君外一名提出) 第一讀會

第十九 傳染病豫防法中改正法律案(田中祐四郎君外二名提出) 第一讀會

第二十 傳染病豫防法中改正法律案(鷲野米太郎君外五名提出) 第一讀會

第二十一 產師法案(土屋清三郎君外三名提出) 第一讀會

第二十二 產師法案(野方次郎君外四名提出) 第一讀會

第二十三 產師法案(山道襄一君外二名提出) 第一讀會

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
朝鮮事業公債法中改正法律案
札幌軌道株式會社及矢作水力株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債

發行ニ關スル法律案
宮崎縣營鐵道及軌道並ニ大隅鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案
(以上三月一日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
畜產組合法中改正法律案
提出者

高田 松平君 多田 滿長君
三善 信房君 大石 倫治君
河野 一郎君

公證人法中改正法律案
提出者
一松 定吉君 藤田 若水君
谷原 公君 作田高太郎君
手代木隆吉君 竹田 儀一君
中山 福藏君 濱野徹太郎君
內藤 正剛君

五大都市ニ特別市制實施ニ關スル法律案
提出者
小山 松壽君 本田彌市郎君
川橋豐治郎君 松永 東君
中 亥歲男君 三宅 馨君
吉川吉郎兵衛君

傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乘車船優遇ニ關スル法律案
提出者
吉川吉郎兵衛君 田中 武雄君
川橋豐次郎君 川淵 洽馬君
原 吉郎君

臨時地方財政補鑿金法案

提出者 前田 米藏君 中島知久平君
堀切善兵衛君 田子 一民君
山本条太郎君 倉元 要一君
岩崎幸治郎君 久原房之助君
島田 俊雄君 松野 鶴平君
花城 永渡君 安藤 正純君
東 武君 高橋熊次郎君
高見 之通君 加藤久米四郎君
山口 義一君 岡田 忠彦君
河上 哲太君 野田 俊作君
金光 庸夫君 若宮 貞夫君
野田文一郎君 風見 章君
加藤 鯛一君 中村 繼男君
小山 谷藏君 岸 衛君
伊禮 肇君 高橋壽太郎君
清瀬 一郎君

昭和八年法律案第五十三號辯護士法中改正法律案

提出者 宮澤 清作君 梅村 大君
小島 智善君 熊谷 直太君
村松 久義君

皇紀二千六百年記念圖書館建設ニ關スル建議案

提出者 眞鍋 勝君 青木 亮貫君
田中祐四郎君

大牟田港修築促進ニ關スル建議案

提出者 野田 俊作君 貝谷 眞孜君

大牟田驛三池港開臨港線促成ニ關スル建議案
提出者 野田 俊作君 貝谷 眞孜君

北海道ニ航空隊設置ニ關スル建議案
提出者 田中喜代松君 林 路一君

北海道中部ニ鐵道局増設ニ關スル建議案
提出者 東 武君 田中喜代松君 林 路一君

雪國地帯ノ鐵道敷設速成ニ關スル建議案
提出者 東 武君 田中喜代松君 林 路一君

野岩羽鐵道速成ニ關スル建議案
提出者 八田 宗吉君 佐藤洋之助君

湖南鐵道敷設ニ關スル建議案
提出者 八田 宗吉君 戸田 虎雄君

柳津野澤間及坂下喜多方間鐵道敷設ニ關スル建議案
提出者 八田 宗吉君

磐梯山猪苗代湖ヲ中心トスル國立公園指定ニ關スル建議案
提出者 八田 宗吉君

一去二十八日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ通變更セリ
三二九 宮川 一貫君
四二八 志賀和多利君

一去二十八日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ
第三部選出請願委員 栗原彦三郎君
一去二十八日特別委員理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

借地借家調停法中改正法律案(藤田若水君外四名提出)外六件委員
理事 內藤 正剛君(理事中山福藏君昨二十七日委員辭任ニ付其ノ補闕)

一去二十八日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ
市町村立尋常小學校費臨時國庫補助法中改正法律案(政府提出)委員
川口 義久君 坂本 一角君

竹内友治郎君 佐々木家壽治君
戸田 虎雄君 土倉 宗明君
宮本雄一郎君 磯部 清吉君
星島 二郎君 山下 谷次君
木村 正義君 豐田 豐吉君
猪股謙二郎君 眞鍋 勝君
原 淳一郎君 末松借一郎君
森 峰一君 塩月 學君

府縣制中改正法律案(政府提出)外三件委員
東郷 實君 川口 義久君
鈴木辰三郎君 箸本 太吉君
大野 伴睦君 中野種一郎君

一去二十八日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
政府貸付金處理ニ關スル法律案(政府提出)委員
辭任中村 繼男君 補闕岸 衛君
辭任松田竹千代君 補闕平川松太郎君
借地借家調停法中改正法律案(藤田若水君外四名提出)外六件委員
辭任竹下 文隆君 補闕牧野 賤男君
衛生組合法案(田中祐四郎君外二名提出)

渡邊 伍君 木村 正義君
三上 英雄君 松尾 孝之君
大本貞太郎君 內ヶ崎作三郎君
勝田 永吉君 齋藤 隆夫君
土屋清三郎君 作田高太郎君
福田 虎龜君 松谷與二郎君
大口 喜六君 横川 重次君
今井 健彦君 佐藤洋之助君
篠原 義政君 田邊 七六君
菅野善右衛門君 助川啓四郎君
有馬 淺雄君 加藤 知正君
近藤壽市郎君 生田 和平君
山村豐次郎君 中野 猛雄君
綾部健太郎君 水島彦一郎君
多田 滿長君 平川松太郎君
田中 貢君 西村丹治郎君
齋藤 直橋君 林 平馬君
百瀬 渡君 飯塚春太郎君
鷺澤與四二君 鈴木 正吾君
杉山元治郎君

外四件委員

辭任尾崎 天風君 補闕丸山 浪彌君
一昨一日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ

第三部選出

請願委員 伊禮 肇君 (栗原彦三郎
君補闕)

一昨一日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任
委員左ノ如シ

第一部選出豫算委員

東 武君
一昨一日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
市町村立尋常小學校費臨時國庫補助法中
改正法律案(政府提出)委員

委員長

川口 義久君

理事

土倉 宗明君 木村 正義君
眞鍋 勝君

府縣制中改正法律案(政府提出)外三件

委員

東郷 實君

理事

箸本 太吉君 中野種一郎君
作田高太郎君

産蘭處理統制法案(政府提出)外二件委

員

大日 喜六君

委員長

加藤 知正君 菅野善右衛門君
篠原 義政君 多田 滿長君
齋藤 直橋君 鷺澤與四二君

一昨一日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
府縣制中改正法律案(政府提出)外三件委

員

辭任川口 義久君 補闕船田 中君

營業收益稅法中改正法律案(中谷貞頼君
外二名提出)委員
辭任田村 實君 補闕小林 絹治君

○議長(濱田國松君)

是ヨリ會議ヲ開キマ
ス、此際御諮リ致スコトガアリマス、文學
博士坪内雄藏君ハ去ル二十八日逝去セラレ
マシタ、諸君御承知ノ如ク、博士ハ學藝界
ノ先覺者デアリマシテ、我國文化ノ發達ニ
貢獻セラレマシタコトハ實ニ多大デアリマ
ス(ヒヤ)今博士逝去ノ報ニ接シマシ
テ、洵ニ痛惜哀悼ノ至リニ堪ヘマセヌ、就
キマシテハ本院ハ院議ヲ以テ弔辭ヲ贈呈致
シタイト存ジマス、尙ホ其文案ハ議長ニ一
任セラレンコトヲ望ミマス——此際發言ノ
通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス——安
藤正純君

○安藤正純君

簡單デアリマスカラ自席デ
御許シテ願ヒマス

○議長(濱田國松君)

許可致シマス

○安藤正純君

坪内博士ハ、我國近代文學
ノ指導者トモ言フベキ地位ニ在ッタ人デア
リマシテ、明治、大正、昭和ノ三代ニ互リ
マシテ、日本ノ文學並ニ演劇ヲ通ジテ、近代
精神ヲ發揮シ、獨リ國內ノミナラズ、世界
的文豪トシテ仰ガレタコトハ、天下周知ノ
事實デゴザイマス(拍手)特ニ翁ガ晩年ノ三
大業績トモ稱スベキモノハ、半生ノ心血ヲ
注イダ所ノ「シエクスピア」全集四十卷ノ翻
譯ヲ完成致シマシタコト、東洋唯一ノ演劇
博物館ヲ創立セラレマシタコト、並ニ財團

法人國劇向上會ヲ設立シテ、全財産ヲ投セ
ラレタコトデゴザイマス(拍手)尙ホ明治ノ
中葉ニ當リマシテ、歐化熱ト國粹論トガ衝
突ヲ致シマシテ、國民ノ思想ガ亂麻ノ如ク
ナレルヲ深ク慷慨セラレ、和漢洋ノ三文學
ノ調和ヲ圖リ、國民思想ノ健全ト統一
トニ努力ヲセラレマシテ、是ガ爲ニ或ハ
學園ヲ創立シ、或ハ幾多ノ著述ヲ刊行
セラレ、以テ知識偏重教育ニナツテ居リマ
スル其當時ノ弊風ヲ矯正セラレマシテ、知
識教育ノ外、情操教育ノ唱道、道德教育ノ
鼓吹ト云フコトニ盡力ヲセラレ、引續イテ
長ク是ガ爲ニ努力ヲセラレマシタ翁ノ教育
上及ビ思想上ノ功績ト云フモノハ、翁ノ文
學藝術ニ對スル偉勳ニ劣ラザルモノガアル
ト信ズルデアリマス(拍手)而モ身ヲ持ス
ルコト謹嚴、死ニ至ル迄筆ヲ放タズ、指導
ヲ怠ラズ、高潔ノ人格ヲ以テ一世ノ師表ト
ナツタコトハ、全ク軍界ニ於ケル乃木將軍ノ
人格ト等シキモノガアルト存ジマス(拍手)
言フ迄モナク國家ニ對スル勳功ト云フモノ
ハ、文武兩面ニアルコトハ申上ゲル迄モゴ
ザイマセヌ(拍手)今ヤ世界的文豪トシ、我
國ノ文學思想方面ヲ指導セラレタル所ノ坪
内博士ノ逝去ニ會シマシテ、哀悼措ク能ハ
ズ、衆議院ガ弔詞ヲ呈スルト云フコトハ、
私共ノ感激ニ堪ヘザル所デゴザイマス(拍
手)謹デ茲ニ我黨ヲ代表シテ弔意ヲ表シ、
御提案ニ對シテ賛成ヲ表スル次第デゴザイ
マス(拍手)

許シテ得タイノデゴザイマス

○議長(濱田國松君)

許可致シマス

○内ヶ崎作三郎君

明治、大正、昭和ノ三
聖代、約七十年間ノ歴史ヲ顧ミマスルニ、
國威ノ發揚、國防ノ充實、經濟ノ伸展、教
育ノ普及、科學ノ進歩等、洵ニ驚クベキモ
ノガアリマス、同時ニ文學、藝術ノ興隆モ
亦顯著ニシテ、輝カシキ黃金時代ヲ現シテ
居ルノデアリマス、比較的短日月ノ間ニ、
斯ル成果ヲ齎シ得タルハ、他ノ諸方面ト等
シク、斯道ノ爲ニ活動シタル多クノ先覺者
ノ貢獻ニ依ルコトハ申ス迄モアリマセヌ
ガ、只今議題ニ上ツテ居リマスル逍遙坪内
雄藏君ノ寄與ノ甚ダ大ナルコトヲ認メザル
ヲ得ナイノデアリマス(拍手)其五十年ニ互
レル教育事業、其和漢洋ヲ包含シタル滋味
豊カナル學風、其名利ニ恬淡トシテ、終始
一貫藝術ニ精進シタル努力、即チ新興小説
ノ先驅トナリ、又劇界刷新ノ中心トナリタ
ル意義アル勳精、特ニ世界的文豪「シエクス
ピア」全集ノ、金玉ノ名句ニ富ム邦語譯ノ
完成、其記念トシテ設立セラレタル演劇
博物館ノ施設、財團法人國劇向上會及ビ日
本「シエクスピア」協會ノ創立等、算ヘ來レ
バ、其赫々タル功績ハ指ヲ屈スルニ遑ガナ
イノデアリマス(拍手)七十七歳ヲ一期トシ
テ、永ヘニ眠リニ入ツタル此文豪ノ一生ハ、
現代文藝復興ノ一大金字塔ノ如ク吾人ノ眼
ニ映ズルノデアリマス(拍手)吾人ハ君國ノ
運命ヲ雙肩ニ荷ヒテ奮闘シタル政治、國
防、財政、科學ノ巨人ニ感謝スルト共ニ、
國民ノ情操ヲ陶冶シ、其文化ノ内容ヲ豊富

○議長(濱田國松君)

内ヶ崎作三郎君

○内ヶ崎作三郎君

自席ニ於テ發言スル御

ニシタル偉人ニ對シテモ、同じク感謝スルコトヲ當然ナリト考ヘマス(拍手)今ヤ此文豪ノ軀ハ、靜ニ相模灣頭、梅花薫ズル邊ニ横テ居ルノデアリマス、然レドモ嘗テ其親ノ如キ慈愛ノ指導ヲ受ケタル者、其名著傑作ニ依ッテ深甚ナル感動ヲ蒙リタル者、其劇ヲ鑑賞シテ藝術ノ極致ヲ悟リシ者、又ハ間接ニ其高風清節ヲ仰イデ憧憬ノ情ヲ寄セタル者、皆聲ヲ吞ミ、悵然トシテ文豪ノ長逝ヲ悲ミツ、アルノデアリマス(拍手)否、其死ハ世界各國ノ文壇ニ於テ哀惜セラレツ、アルノデアリマス、彼ハ今更藝術ノ本尊ノ如ク、又趣味ノ源泉ノ如ク、社會大眾ヨリ敬慕セラレツ、アルノデアリマス、國民ト其指導者トノ間ノ此美ハシキ情緒ノ發露ハ、正ニ現代ニ於ケル一清涼劑タルヲ失ハナイノデアリマス(拍手)由來我國ハ武士道ノ郷土タルト共ニ文藝ノ故郷デアリマス、我が海陸ノ精銳ハ、能ク帝國ヲ守護シ、東亞ノ平和ヲ維持シツ、アルノデアリマス、而シテ他面長キ傳統ヲ有スル文學藝術ハ、過去ノ如何ナル時代ニ比スルモ、遜色ナイ幾多ノ作品ヲ誇ツテ居ルノデアリマス、果セル哉世界各國ハ、漸ク我國文化ノ研究ニ熱心ナル態度ヲ示スニ至ツタノデアリマス、彼等ハ我國ノ力ヲ認メルト共ニ、心ヲモ知ラントスルニ至ツタノデアリマス、實ニ欣快ノ事デアリマス(拍手)本院ガ此際、故道遙坪内雄藏君ニ、院議ヲ以テ弔意ヲ表スルハ、偶、我國文化ノ本質ノ一面ヲ中外ニ宣揚スル手段ナリト信ジマス、誠ニ適切ナル舉トシテ、滿腔ノ誠意ヲ以テ、我黨ヲ代表

シテ之ニ賛成スル所以デアリマス(拍手)
○議長(濱田國松君) 岸衛君
○岸衛君 簡單デアリマスルカラ、自席ヨリノ發言ヲ御許シテ願ヒマス
○議長(濱田國松君) 許可致シマス
○岸衛君 故坪内先生ガ、明治、大正、昭和ノ三代ヲ通ジマシテ、日本文化ニ貢獻致シマシタルコトハ、洵ニ甚大ナルモノガアリマスルコトハ、既ニ安藤、内ヶ崎兩君ヨリ述ベラレマシタル通りデアリマシテ、本邦文藝界ニ於キマスル所ノ元勳デアアルコトハ、誰モ異論ノナイ所デアリマス、既ニ兩君ヨリ詳細ニ先生ノ御高德ヲ述ベラレマシタルガ故ニ、私ハ之ヲ省略ヲ致シマスルガ、斯ル世界ノ文豪ニ對シマシテ、院議ヲ以テマシテ厚ク弔意ヲ表シマスルコトハ、寔ニ當然ノコト、存ジマシテ、茲ニ吾々同志一同ヲ代表致シマシテ衷心ヨリ、敬虔ノ念ヲ以テ此勳議ニ贊意ヲ表スル次第デアリマス(拍手)
○議長(濱田國松君) 議長ノ發議ニ對シテ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ茲ニ議長ノ手許ニ於テ起草シタル文案ヲ朗讀致シマス
衆議院ハ我が國文化ノ發達ニ貢獻セラレタル文學博士坪内雄藏君ノ長逝ヲ哀悼シ恭シク弔詞ヲ呈ス
〔拍手起ル〕
此弔詞ノ贈呈方ハ議長ニ於テ取計ヒテ致シマス——是ヨリ日程ニ入りマス、日程第一、

朝鮮事業公債法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——兒玉拓務大臣
第一 朝鮮事業公債法中改正法律案
第一讀會
〔政府提出〕
朝鮮事業公債法中改正法律案
朝鮮事業公債法中左ノ通改正ス
第一條中「六億六百二十萬圓」ヲ「六億千五百八十萬圓」ニ改ム
附則
本法ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
〔國務大臣伯爵兒玉秀雄君登壇〕
○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君) 只今議題ト相成リマシタ朝鮮事業公債法中改正法律案ノ提出ノ理由ヲ説明致シマス、朝鮮總督府特別會計ニ於キマシテハ、昭和十年度以降五年間ノ繼續事業ト致シマシテ、鐵道ノ建設及改良ノ追加工事ヲ施行スルノ豫定デアリマシテ、其總額九百五十五萬圓ヲ、朝鮮事業公債法ノ法定額ニ追加致シマシテ、合計六億一千五百八十萬圓ニ増加セントスル爲ニ本法律案ヲ提出致シマシタル次第デアリマス、何卒御審議ノ上ニ協贊ヲ與ヘラレシコトヲ希望致シマス
○議長(濱田國松君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リヲ致シマス
○青木雷三郎君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス
○議長(濱田國松君) 青木君ノ勳議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、

ス、仍テ勳議ノ如ク決シマシタ——日程第二及第三ハ同種ノ議案デアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第二、札幌軌道株式會社及矢作水力株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案、日程第三、宮崎縣營鐵道及軌道並ニ大隅鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案、以上二案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——内田鐵道大臣
第二 札幌軌道株式會社及矢作水力株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
第三 宮崎縣營鐵道及軌道並ニ大隅鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
札幌軌道株式會社及矢作水力株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案
政府ハ左ノ軌道ノ經營廢止ニ關スル補償ノ爲之ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得
一 札幌軌道株式會社所屬鐵道
一 矢作水力株式會社所屬鐵道
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

宮崎縣營鐵道及軌道並ニ大隅鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

政府ハ左ノ鐵道及軌道買收ノ爲之ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

- 一 宮崎縣營鐵道及軌道
- 一 大隅鐵道株式會社所屬鐵道

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(國務大臣内田信也君登壇)

○國務大臣(内田信也君) 只今上程ニナリマシタニ法律案ノ提案理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、今回提案致シマシタ事項ハ、軌道ノ營業廢止補償ト、地方鐵道及軌道ノ買收ノ爲公債發行ニ關スルモノデゴザイマス、先ヅ軌道ノ營業廢止補償ニ付テ申上ゲマスト、補償致サントスル軌道ハ、北海道ニ於ケル札幌軌道及岐阜縣ニ於ケル矢作水力株式會社經營ノ軌道デゴザイマス、是等ハ何レモ是ト接近並行シテ國有鐵道ヲ敷設致シマシタ結果、其影響ヲ受ケマシテ、營業ヲ繼續スルコトガ出來ナクナリマシタノデ、今回其營業廢止ニ依ツテ生ズル損害ヲ補償セント致ス次第デゴザイマス

次ハ地方鐵道及軌道ノ買收デゴザイマスガ、買收セントスル鐵道及軌道ハ、宮崎縣ニ於ケル宮崎縣營鐵道及軌道ト、鹿児島縣ニ於ケル大隅鐵道トデゴザイマス、是等ハ何レモ建設工事ノ進捗上、買收ヲ必要トスルモノデゴザイマス、何卒御協賛ヲ與ヘラレシコトヲ希望致シマス

○議長(濱田國松君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス——永田良吉君

(永田良吉君登壇)

○永田良吉君 只今御提案ニナリマシタ第三ノ地方鐵道買收法律案ノ中、私ハ大隅ニ關係ノアル大隅鐵道買收ノ件ニ付キマシテ、至極簡單ナ質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、大隅國ハ從來國鐵ノ恩惠ニハ少シモ浴シテ居ナカッタノデアリマス、日本ノ百二十二ノ選舉區ノ中ニ、吾々第三區ハ百六十方里モアルノデアリマシテ、香川縣ヨリカズト大キイ、サウ云フ大キナ選舉區ニ對シテ、未ダ國鐵ノ一寸モナカッタ、ソレガ漸ク今回先ヅ實現サレルヤウニナツタコトハ、國家ノ爲ニ同慶ニ堪ヘヌ次第デアリマス、ケレドモ唯私ハ、此鐵道ノ買收ニ付テ鐵道當局ノ方ニ少シ御尋シテ置カシケレバナラス從來ノ歴史ヲ知ツテ居ルノデアリマス、ソレニ付テ御尋シテ置キタイト思フノデアリマス、丁度今カラ二十一年ノ昔、櫻島ノ大噴火ガアリマシタ、アノ際ニ吾々此地方ノ者ガ、如何ニ政府ニ總ツテモ鐵道ヲ通シテ呉レナイカラ、先ヅ唐語ニ依デモ賣ツテ鐵道ヲ建設シヨウデハナイカト云フ譯デ、オ互ハ些少ナガラ株ヲ一ツ持チ二ツ持チシテ、大隅鐵道ハ今カラ二十一年前ニ、オ互ノ地方民ガヤッタノデアリマス、隨テ此株ノ持主ハ決シテ他ノ地方ノ資本家デアルトカ、サウ云フモノ、株ノ持主デハナカッタノデアリマス、全部地方ノ村長、村會議員、有志等ヲ以テヤツテ居ッタノデアリマス、然ルニ今回ガ買收ニ當ツテ、先ヅ政府當局ハ、此買

收基礎ノ單價ヲドウ云フ風ニ立ツテ居ラレルカ、之ニ付テ私ハ御尋シタイノデアリマス、承リマスト現在ノ株主ハ、或ハ地方ノ有志等ガ段々地方ノ疲弊ニ堪ヘズ、或ハ一二ノ有力ナ人ニ集メラレテ居ル傾向モアリマスケレドモ、是等ヲ地方ノ元ノ動機ヲ察セスシテ、單ニ之ヲ資本家デアルト云フヤウナ見解ヲ以テ、政府ガ買收サレマシタ場合ハ、非常ニ地方ノ株主ガ迷惑ヲスルノデアリマス、又モウ一ツ申上ゲテ置キタイコトハ、此鐵道ヲ今回國鐵ガ建設ヲサレル場合、ドウ云フ方面ニ線路ヲ新シク敷設セラレルカ、之ニ付テモ御尋シタイノデアリマスガ、尙ホ此鐵道ヲ建設スル際ニ於テ、株主バカリデハナイ、吾々地方ノ者ハ、其當時鐵道ノ敷地ヲ極ク安イ地租——地價金ノ三倍ト云フ値ヲ以テ私設鐵道ノ買收ニ應ジタ、地價金三倍ト申上ゲマス、私共ノ地方デ先ヅ田地方一反當リ僅カ五六圓デアアル、畑地ガ一反當リ二圓ト云フヤウナ、全國ニ類ノナイヤウナ安イ値ヲ以テ、私設鐵道ノ買收ニ敷地ヲ提供シタノデアリマス、或ハ家ヲ移轉シタノモノ、或ハ水田ガ二ツ三ツニ割レタモノモアリマスガ、サウ云フ苦痛ヲ忍ビデ、吾々地方民ハ私設鐵道ヲ犧牲ヲ拂ツタ地方ノ有志、農民ニ對シテ、今回線路ヲ承リマス、從來ノ線路ニハ多少據ラヌ點ガアル、是ガ私ハ甚ダ地方トシテ迷惑ヲ感ズル譯デアリマス、オ互ガ土地ヲ安ク寄附シタト云フノハ、又苦シイナガラ諸ヲ賣ツテ株ヲ持ツタト云フノハ、將來私

設鐵道ガヤツテ居ル線路ニ沿ツテ、國鐵ガ敷設セラレルト云フコトヲ期待シテ、櫻島噴火ノ、二十年前ニ此鐵道ハ建設ニ地方民ガ熱ヲ以テ當ツタノデアリマス、所ガ最近承リマス、此私設鐵道ガ建設當時ノ事情ト現在トハ非常ナル相違ガアルノデアリマス、現在ハ御覽ノ通り鐵道省モヤツテ居ラレマスガ、地方ニモ非常ニ自動車ガ跋扈ヲシテ居ル、其爲ニ此地方ハ自動車ト競争シテ、負ケサウナ貧弱ナ狀態ニアルノデアリマス、ソレガ爲ニ此鐵道ハ年々缺損ヲ來シテ居ル、サウシテ缺損ヲ致シテ居ルヤウナ貧弱ナ鐵道デアアルカラ、鐵道省ハ之ヲ買殺スト云フヤウナコトガアリハシナイカ、之ヲオ互ハ心配シテ居ルノデアリマス、元々二十年前ニ於テハ立派ナ嫁サンデアッタノデス、モウ其孫ガ生レル年ニナツテ、今頃ニナツテ鐵道省ニ嫌ナコトヲ言ウテ貰ツテハ、非常ニ地方ノ者ガ迷惑ヲ致シマスカラ、何卒多少ノ缺損ハアツタニシテモ、從來ノ行掛リヲ能ク御考慮ノ上、本鐵道ヲ買收セラレルヤウニ考慮ヲ御願シタノデアリマスガ、之ニ對シテ鐵道當局ハ、ドウ考慮ヲ拂ツテ居ラレマスカ、此點ヲ質問シテ置キタイト思フノデアリマス、尙ホ本鐵道ノ迂廻ノ狀態ニ於テ、一番南ニ寄ツテ居ル所ニハ、我國ノ一番大事ナ吾平山陵ト云フ御陵ガアルノデアリマス、御陵ニ對シテハ或ハ參宮鐵道デアルトカ、色々ナ事モ各地ニ於キマシテ行ハレテ居ルノデアリマスガ、斯ウ云フ日本ノ國ノ大事ナ御陵ノ在ル所デアリマスカラ、多少位ハ迂廻シテモ、從來ノ線路通りニ建設サレン

コトヲ希望スル次第デアリマス、尙又停車場等ニ於テモ、承リマスト多少廢止ニナリハセヌカト云フコトヲ聞イテ、オ五ハ非常ナ心配ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、是等モ何卒從來ノ停車場ノ在ル所ニハ、必ズ國トシテモヤツテ載キタイ、私設鐵道ガヤツタ位ノ事ヲ、國ガヤラヌト云フコトハ不公平ト思ヒマスカラ、サウ云フ點ニ付テモ御配慮ヲ御願シタイノデアリマス、尙又本年ハ大隅ニ於キマシテ大演習ガ行ハレルト云フコトヲ聞イテ居ルノデアリマス、又海軍ノ航空隊等モ建設セラレマシタカラ、之ニ對シテモ鐵道ノ建設ハ急グ必要ガアルト思ヒマス、尙ホ是ハ鹿兒島トノ關係ノ連絡モアリマスカラ、是ガ延長速成等ニ對シテ、當局ハドウ云フ事ヲ思ツテ居ラレルカ、是モ簡單ニ御伺致シテ置キタイト思ヒマス

尙ホ最後ニ私ハ、現在ノ社員ハ永イ間此鐵道ノ事務ニ從事シテ居リマシテ、殆ド月給モ渡ラズニ永イ間苦ンデ參ツタノデアリマスカラ、是等モ今回買收ノ際ニハ、舊社員モ或ハ國鐵ノ社員等ニ轉化シテ、優遇シテ戴クヤウニ御願シタイト思ヒマスガ、是等ニ付テハ如何ナル考慮ヲ拂ツテ居ラレルカ、此點ヲ御尋シテ置キタイト思ヒマス、至極簡單デアリマスガ、之ヲ以テ私ノ質問ヲ終リマス(拍手)

(國務大臣内田信也君登壇)

○國務大臣(内田信也君) 只今永田君ヨリ御質問ノ、大隅鐵道買收ニ關スル件ニ付テ御答致シマス、買收價格ニ付キマシテハ、委員會ニ於テ詳細申述ベマスガ、地方鐵道

法ニ依リマシテ、益金五分以内ノ時ハ、御承知ノ通り建設費以内デ協定スルコトニナツテ居リマシテ、尙ホ鐵道省ノ慣例ト致シマシテ、益金ノ還元額ト建設費トノ折半、即チ損失ノ場合ニ於テハ益金ノ還元額ガ赤字「マイナス」デスカラ、即チ還元額ガ零トナリマスカラ、益金ノ還元額ト建設費トヲ寄セテ二デ割ツタト云フコトハ、建設費ト寄セテ二デ割ルコトニナル、即チ建設費ヲ二デ割ルコト、即チ建設費ノ半額ト云フコトニナリマシテ、其方法ニ付キマシテハ會社ト協定濟デアリマスガ、然ラバ建設費ガ下ノ位ニナルカ、營業ノ内容ガドウナルカト云フコトハ、是ハ今後ノ問題ニ殘サレテ居リマスカラ、數字ノ點ハ只今明ニ申上ゲルコトハ出來ナイノデアリマス、尙ホ線路ニ付テ、從來大隅鐵道ヲ敷設シタ時ニハ、安ク地方民ガ實ツテ損ラシテ居ルノダカラ、ソレヲ能ク考慮シテ、大體大隅鐵道ノ現在ノ線路ヲ尊重シロト云フ御言葉デアリマシタガ、御尤デゴザイマス、ソレデ鐵道ト致シマシテハ大體從來ノ線路、即チ現今敷イテアル所ノ大隅鐵道ノ線路ヲ通ルコトニナツテ居リマス、固ヨリ線路ノコトデゴザイマスカラ、一寸デモ外レテハイカヌト云フ、嚴格ナ譯ニ參リマセヌケレドモ、大體建設上其線路ヲ通ルト云フコトヲ御承知願ヒタイト思ヒマス、尙ホ第三ニ停車場モ現今ノ停車場ノアル所へ停車場ヲ据エテ吳レロト云フ御話デゴザイマスガ、是モ地方民ガ其處ニ停車場ガアツテ便利ヲ得テ居ルモノヲ、ソレヲ一概ニ取外シテシマフト云フコトハ、

地方民ノ既得權ヲ尊重スル意味カラ宜クナイト思ヒマスカラ、現在アル停車場ヲ大體尊重シテ、技術上差支ナキ限リ置ク積リデゴザイマス、尙ホ御陵參詣ノ便ヲ圖ルト云フコトモ、固ヨリ御言葉ノ通り、便ヲ圖ツテ驛ヲ設置致シマス、又現業員ハドウスルカト云フ御話デゴザイマスガ、固ヨリ大隅鐵道ヲ買收シテ、失業者ヲ補ヘルヤウナコトガアツテハ、現政府トシテモ其本旨デゴザイマセヌカラシテ、現業員ハ鐵道省ニ於テ引續グ積リデゴザイマスカラ、御安心ヲ願ヒタイ次第デゴザイマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 次ノ通告者清水徳太郎君

(清水徳太郎君登壇)

○清水徳太郎君 私ハ簡單ニ鐵道大臣ニ要領ダケ御尋シタイト思ヒマス、御承知ノ通り我が國有鐵道ハ、近年非常ニ好況ニ入りマシテ、一昨年カラ日ニ月ニ收入増加ヲ來シテ居ルノデアリマス、洵ニ御同慶ノ至リデアリマス、然ルニ之ニ反シマシテ、地方鐵道ハ年ト共ニ不況ニ入りマシテ、經營ニ頗ル困難ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、洵ニ同情ニ堪ヘナイノデアリマス、然ルニ此度御提案ニナリマシタ私設鐵道ノ買收ハ、洵ニ僅ナノデアリマシテ、是デハ私設鐵道ノ救濟ハ如何カト懸念ニ堪ヘナイノデアリマス、現今ノ私設鐵道ノ狀況ヲ調べて見マスト、地方鐵道及軌道全體デ、其會社ノ數ハ三百五十六會社アルノデアリマス、其中デ缺損續キデアリ、無配當ヲ續ケテ居リマスモノガ二百三十一會社アルノデアリマス、

サウシテ配當ラシテ居ル會社ハ僅ニ百二十五社デアリマスガ、其中ノ八十五社ト云フモノハ、配當率ガ六分未滿ニ過ギナイノデアリマス、六分以上ノ配當ラシテ居ルモノニアリマシテハ、僅ニ四十社デアリマス、之ヲ要シマスルニ、私設鐵道及軌道ノ全體ヲ通ジテ、無配當或ハ缺損ニナツテ居ルモノガ、六五%アルノデアリマス、大半ハ經營出來ナイヤウナ狀況デアアルノデアリマス、サウシテ二四%ガ六分未滿ノ配當デアツテ、僅ニ一%即チ約一割ニ過ギナイモノガ、六分以上ノ配當ラシテ居ルニ過ギナイト云フヤウナ、哀レナ狀況ニアルノデアリマス、之ヲドウ救濟シテ行クカト云フコトガ、非常ニ大切ナ問題デアアルノデアアル、然ルニ國有鐵道ガ好況ニアルノニ、ドレダケノ考ヲ以テ今日ソレ等ニ臨ンデ居ラレルカト云フコトガ、今私ノ御尋セントスル所デアリマス

第一番ニ御尋シヨウトスルノハ、私設鐵道ノ買收ハ何故コンナニ少イノカ、私設鐵道ノ經營ガ未曾有ニ困難デアアルノニ、殆ド未曾有ニ少イノハドウ云フ譯デアアルカ、御察シ申シマスルニ、近年鐵道疑獄ガ出來テ、非常ニ朝野ヲ騒ガシテ居リマス、殊ニ現内閣ノ一枚看板ハ綱紀肅正デアアル、綱紀肅正デアアルカラ、君子危キニ近寄ラズトシテ、成ベク危險ヲ避ケヨウト云フ御考デアアルノカ、ソレナラバ誰デモ出來ルコトナノデアアル、綱紀肅正ト云フコトハ、仕事ヲ爲サヌト云フコトナラバ、誰ダツテ出來ル話デアアル、何時モヨリ餘計ニ買收シテ、尙且ツ醜聞ノナイコトデアツテこそ、本當ノ綱紀肅正

デアルト私考へテ居ルノデアリマス（拍手）殊ニ内田鐵道大臣ハ同情深クテ勇氣ガアルトシテ、皆サンカラ敬意ヲ拂ハレテ居ルガ、君子危キニ近寄ラヌノハ、ソレハ寧ロ臆病デハナカラウカ、恐ラクハ君子ノ方ニ歩ミツ、アルノカモ知レナイケレドモ、サウ云フコトハ鐵道大臣ノ本意デハナイノデヤナイカ、心ニモノイコトヲシテ居ラレルノデヤナイカ、思ヒ切テ買収シタイノデヤナイカ、輿論ノ起ルノヲ待ツテ居ルノデヤナイカ、斯ウ云フノデヤナカラウカト思ヒマスカラ、私ハ輿論ノアル儘ヲ、茲ニ露骨ニ、率直ニ申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス、例ヲ引クコトハ私ハ甚ダ好ミマセヌケレドモ、先達テ風水害ノ見舞ニ岡山縣ニ參リマシタノデアリマス、岡山縣ニ行キマシタ時ニ、中國鐵道ト云フノヲ初メテ視察シマシタガ、何處ノ誰ガ經營シテ居ルカ存ジマセヌケレドモ、津山ト岡山ヲ連絡シテ居ル線路デアリマス、此線路ガ私設鐵道デアル爲ニ、貨物ハズツ西ノ方ヲ廻ツテ、三角形ノ二邊ヲ通ツテ、高梁カラ岡山ニ行ッテ居ルノデアリマス、詰リ津山カラ新見ヲ經過シテ、高梁ヲ經過シテ岡山ニ行ッテ居ル、三角形ノ二邊ヲ通ツテ居ルノデアリマス、之ヲ若シ國有鐵道ニ買収シマシタナラバ、其三角形ノ二邊ノ短イ方、底邊ノ方ヲ通ツテ、津山カラ岡山ニ直接來レルノデアルカラ、公衆ガ便利ヲスルノミナラズ、鐵道モ助カル、非常ニ公共ノ爲ニ宜イコト、感ジマシタノデアリマス（拍手）何ト云フ馬鹿ナコトヲシテ居ル、私設鐵道ハ經營ガ困難デアルカラ

料金ガ高イノデ、貨物ガサウ云フヤウナ廻リ方ヲシテ居ル、斯ウ云フヤウナ線ガ、一舉ゲマシタナラバ、相當ニ澤山アル、私ハ委員會ニ於テ之ヲ述ベルコトヲ敢テ厭ハヌ者デアリマス、免ニ角國有鐵道ノ連絡經營上又軍事上是非買収シナケレバナラヌ線ガ澤山アル、而モ其鐵道ハ經營困難デ氣息奄々タル狀況デアル、ソレヲ敢テシナイト云フノハ——網紀肅正ノ内閣デアルカラ、敢テシナイト云フノナラ、私ハ是ハ總理大臣ニ伺ヒタイト思フノデアリマス、總理大臣ノ網紀肅正ハ、仕事ヲセズニ居レト云フノデアリマセウカ、サウデハナイト思フ、大ニ仕事ヲシテ網紀肅正ヲ圖ルト云フノデアルト思フ、鐵道大臣ハ其就任ノ挨拶ニ於テ、網紀肅正ヲ一番先ニ訓示ナサツタ、訓示ヲナサツタガ、仕事ヲセズニ網紀肅正ヲセイト云フノデヤナイト云フ風ニシカ、私等ハ取レヌノデアリマス、サウ云フ網紀肅正ガ現内閣ノ一枚看板デアルト云フナラバ、洵ニ心細イ現内閣デアルト思フノデアリマス

第二番目ニ御尋致シタイコトハ、私設鐵道ヲ救済スルニ當ツテ、買収ガ出來ナイナラバ、更ニ補助金ヲ御増シニナル御考ハナイカドウカ、成程先達テ吾々ガ協賛致シマシタ豫算ノ中ニハ、二十萬圓ノ増額ガ含マレテ居リマシテ、吾々モ喜ンデ協賛致シタノデアリマス、併シ此二十萬圓ト云フノハ一昨々年三土鐵道大臣ガ、鐵道ガ不況ニナツテ、收入減ダカラト云ツテ減ラサレタ五十萬圓ノ内、昨年ハ景氣ガ好イカラト云ツテ三十萬圓復活シテ——景氣ガ好クナレバ復活スルト云フ言實ノ下ニ、昨年ハ三十萬圓復活ヲナサレテ、残りノ二十萬圓ヲ今年ハ約束履行ヲナサツタノデアル、ダカラ是ハ私等ハ有難イニハ違ヒナイケレドモ、當然ダト思ッテ居ルガ、此上ニ増ス必要ガアルノデヤナイカ、現在私設鐵道ニ於テ補助金ヲ受ケナケレバナラヌ資格ノモノガ澤山アツテ、其資格ノモノニ悉ク補助金ヲアルト云フコトニ致セバ、更ニ二百五十萬圓位要ルノデアリマス、併シソレダケノ金ヲ一度ニ鐵道省カラ増シテ呉レト云フコトハ、是ハ私ハ無理ナ要求ダト思ヒマスカラ、徐々デ結構デアル、來年ハ五十萬圓、其次ハ尙ホ五十萬圓ト云フヤウニ、徐々ニ御増シニナル、僅カデモ宜シイ、御増シニナル御考ハナイカドウカト云フコトヲ、第二番目ニ御尋シタイノデアリマス

尙ホ第三ニ御尋シタイコトハ、私設鐵道ノ買収モ十分行カズ、補助金ノ増額モ思フニ任セズトスルナラバ、外ニ何カ救済ノ途ヲ講ジナケレバナラヌ、其救済ノ方法ハ何處ニ眼ヲ著ケタラ宜イカ、私ハ出來ルモノナラバ、低利資金ヲ融通シテ上ゲタラドウカト思フ、何トカ低利資金ヲ融通スルノ途ヲ講ズル御考ハナイカドウカ、安イ利息デ借りテ居ルモノデモ、今日私設鐵道ハ六分乃至七分ノ利息デ借りテ居ルノデアリマス、高イモノニナルト一割デゴザイマス、之ヲ其半分以下デ、低利資金ヲ融通スルコトガ出來タナラバ、救済出來ルノデヤナカラウカト思フノデアリマスルガ、之ニ對シテ鐵道大臣ハ思フ致サレル所ハナイデアリマセウカ、御考ヲ聽カシテ載キタイノデアリマス

萬圓復活シテ——景氣ガ好クナレバ復活スルト云フ言實ノ下ニ、昨年ハ三十萬圓復活ヲナサレテ、残りノ二十萬圓ヲ今年ハ約束履行ヲナサツタノデアル、ダカラ是ハ私等ハ有難イニハ違ヒナイケレドモ、當然ダト思ッテ居ルガ、此上ニ増ス必要ガアルノデヤナイカ、現在私設鐵道ニ於テ補助金ヲ受ケナケレバナラヌ資格ノモノガ澤山アツテ、其資格ノモノニ悉ク補助金ヲアルト云フコトニ致セバ、更ニ二百五十萬圓位要ルノデアリマス、併シソレダケノ金ヲ一度ニ鐵道省カラ増シテ呉レト云フコトハ、是ハ私ハ無理ナ要求ダト思ヒマスカラ、徐々デ結構デアル、來年ハ五十萬圓、其次ハ尙ホ五十萬圓ト云フヤウニ、徐々ニ御増シニナル、僅カデモ宜シイ、御増シニナル御考ハナイカドウカト云フコトヲ、第二番目ニ御尋シタイノデアリマス

尙ホ第三ニ御尋シタイコトハ、私設鐵道ノ買収モ十分行カズ、補助金ノ増額モ思フニ任セズトスルナラバ、外ニ何カ救済ノ途ヲ講ジナケレバナラヌ、其救済ノ方法ハ何處ニ眼ヲ著ケタラ宜イカ、私ハ出來ルモノナラバ、低利資金ヲ融通シテ上ゲタラドウカト思フ、何トカ低利資金ヲ融通スルノ途ヲ講ズル御考ハナイカドウカ、安イ利息デ借りテ居ルモノデモ、今日私設鐵道ハ六分乃至七分ノ利息デ借りテ居ルノデアリマス、高イモノニナルト一割デゴザイマス、之ヲ其半分以下デ、低利資金ヲ融通スルコトガ出來タナラバ、救済出來ルノデヤナカラウカト思フノデアリマスルガ、之ニ對シテ鐵道大臣ハ思フ致サレル所ハナイデアリマセウカ、御考ヲ聽カシテ載キタイノデアリマス

尙ホ終リニ臨ミマシテ御尋シタイノハ、自動車ノ許可ノ件デアリマス、今日私設鐵道ガ斯クモ不況ニ陥リマシタ其主ナル原因ト云フモノハ、自動車ノ普及デアルノデアリマス、故ニ自動車ガ若シ私設鐵道ト並行スルモノデアリマシタナラバ、私設鐵道ガ其經營ヲ出願シタ場合ニハ、外ノ出願ヨリモ先ニ許ス御考ハナイカドウカ、慥カ鐵道省デハ、從來サウ云フ風ニ取扱ツテ來テ居ルト思ヒマスガ、更ニハッキリ鐵道大臣カラ其點ヲ聽イテ置キタイノデアリマス、私設鐵道ノ經營ヲ樂ニスル爲ニ、自動車ノ競争ヲ避ケル爲ニ、競争ニナル場合ハ此私設鐵道ニ經營サセルト云フ方針ノ下ニ進ムコトガ、私設鐵道ヲ救済スル大切ナ問題ト考ヘテ居ルノデアリマス、尙ホ一言附加ヘテ御尋シテ置キタイノハ、一昨々年マデハ鐵道省ハ隨分私設鐵道ヲ壓迫シテ來タノデアリマス、競争シテ來タノデアリマス、是ニ於テ昨年モ一昨年モ、世論轟々トシテ其不當ヲ詰ツタ結果ト致シマシテ、又此頃收入モ増加シタ結果デアリマセウ、如何ニモ其競争ノ態度ハ穩カニナツテ參リマシタガ、尙ホ行届カヌ點ガアルノデアリマス、親ノ心子知ラズデ、收入サハ増セバ國有鐵道ノ使命ヲ果セルモノト思ッテ、私設鐵道ヲ壓迫シテ居ル當局者ガ見當ルノデアリマス、洵ニ情ケナイコトデアリマスカラ、此邊ニ關シマシテ、鐵道大臣ノ御考ハ何處ニ在ルカ、聽カシテ貰ヒタイノデアリマス

之ヲ要スルニ、以上五ツノ點ハ、今日ノ惱メル私設鐵道ヲ救済スル所ノ最モ大切ナ問題ト思ヒマスニ依リテ、御尋スル次第デゴザイマス、尙ホ日程ニ上リテ居リマス線ニ關シマシテハ、何レ委員會ニ於キマシテ詳細御尋シタイト思フノデアリマス、之ヲ以テ終ルコトニ致シマス(拍手)

(國務大臣内田信也君登壇)

○國務大臣(内田信也君) 清水君ノ御尋ニ御答致シマス、第一ノ御尋ハ、現今私設鐵道ヲ困窮シテ居ルガ、政府ハ何故買収ヲヤラナイノカト云フ御尋デゴザイマシタ、是ハ御言葉ノ開誤リカモ存ジマセヌガ、サウ云フ御質問デアッタトスレバ、少シク意見ヲ異ニスルノデアリマス、御承知ノ通り私設鐵道ノ買収ハ、建設上ノ必要、又ハ運輸系統上ノ必要カラ起ルモノデアリマシテ、私設鐵道ヲ救済スルガ目的デ、買収ハ致サヌ方針デゴザイマス、而シテ本年大變買収ガ少イデヤナイカ、大變應病デヤナイカト云フ御尋デゴザイマスガ、只今申上ゲタ通り、私鐵ノ買収ハ建設工事ノ進行上必要已ムラ得ザルモノヲヤル、其點ニ於テ只今上程シテ居リマス此二線ヲ以テ必要ナモノトシテ、是レ以上ハ建設上必要已ムラ得ザルモノトハ考ヘテ居ラナイノデアリマス、併シ追テ近々尙ホ數本ノ建設上必要ナル買収線ガ、一兩年ノ内ニアルカト想像シテ居ルノデアリマス、尙ホ運輸系統上ノコトハ是ハ議論デアリマシテ、運輸系統上デスカラ、建設ノ進行上ノ如ク絕對的ノモノデアリマセヌ

デ、必要トモ言ヘレバ必要トモ言ヘル、ソレヲ悉ク國有鐵道ニ買収シテシマヘバ便利カモ存ジマセヌガ、財政モ考ヘナケレバナリマセズ、殊ニ本年ノ財政ノ如キ、洵ニ憂フベキモノガアリマスガ故ニ、運輸系統上ニ基ク買収ハ、絕對的ノモノデナイト存ジテ之ヲ差控ヘ、他日財政ノ餘裕ヲ見テ之ヲ買収セント欲スル者デアリマス、又頗ル臆病デ仕事ヲセヌト云フ御叱リモ受ケマシタガ、少シク言葉方端のデ申過ギルカモ知レマセヌガ、仕事ハ私鐵ノ買収ダケガ仕事デヤナイト私ハ思フデ居ルノデアリマス、有體ニ申スト、私ハ改良工事並ニ鐵道ノ直接ノ狹義ノ目的デナイ、廣イ意味ノ社會救済、若クハ富源ノ開發等ニ向ッテハ、就任以來微力ヲ致シテ居ル積リデアリマス、尙ホ又近日ハ東北振興會ノ決議ニ基イテ、鐵道會議ニ付シテ、鐵道會議ノ諮問ヲ得レバ、東北振興ノ爲ニ建設線ノ線上等ヲ致ス決心デゴザイマスカラ、私鐵ヲ買収シナイカラ意氣地ガナイト云フ御答メハ、少シク私ハ諒承致シ難イ點デゴザイマス、ソレカラ第二ノ御尋ハ、私鐵ノ補助金ヲ増額セヌカ、七百三十萬圓ヲ今年七百五十萬圓ニ復活シタマケデハ足ラヌデハナイカト云フ御答メデゴザイマスガ、是ハ見方ニ依リマシテ、一方カラ論ジマスルト、昨年一昨年ノヤウニ不景氣デ、私設鐵道ガ本年ヨリ儲カラナカッタ時ニ、七百萬圓ノ補助金デ私鐵ガ甘ンジテ居ツクモノヲ、今年ハ景氣ガ好クナッテ利益ガアルノニ何故之ヲ増加シタノカト、斯

ウモ論ゼラレルノデゴザイマス、デスカラシテ、是ハ見方ニ依ル次第デアリマシテ、其見方カラスレバ、二十萬圓増額ハ聊カ時宜ヲ得テ居ナイト思フノデアリマスケレドモ、併シ國有鐵道トシテモ、懐ロ工合ハ一昨年ヨリハ大分恢復シテ居リマスシ、且ツ院議ヲ以テ國有鐵道ノ益金ガ恢復シタ場合ニハ、七百五十萬圓ニ復活シロト云フ決議ガアリマシテ、私等モ當時議員トシテ、之ニ參與致シタノデアリマスルガ故ニ、院議ヲ尊重シテ今回七百五十萬圓ニ増シタ次第、之ヲ御諒承願ヒタイノデアリマス、此上ノコトハ只今ハマダ考ヘテ居リマセヌノデゴザイマス、ソレカラ第三、私設鐵道ニ低利資金ヲ融通スル考ナキカ、是ハ大藏省預金部ノ低利資金ハ、營利會社ニ之ヲ融通スルコトハ、困難ナ事情ニアルコトハ御承知ノ通りト存ジマス、故ニ鐵道省ト致シマシテハ昨年三主君時代以來、大藏省ト再三交渉ヲ重ネタサウデスケレドモ、マダ話ガ纏ラナイノデゴザイマス、仍テ大藏省預金部ノ低利資金ニ依ラズシテ、唯民間ノ資金ノ融通ニ對シテ、鐵道省ハ力ヲ貸シテ、其金利ノ引下ニ盡力致シマシテ、多少成功シテ居ル次第デゴザイマス、

第四、私鐵ト並行シタ自動車ノ出願ガアツタ場合ニハ、私鐵ノ優先權ヲ認メナイカト云フ御尋デゴザイマスガ、例ヘバ公共團體ニ對シテモ、優先權ヲ自動車ニ對シテハ與ヘルト云フコトニナッテ居リマスノデ、他ノ主義ト相反セザル條件ノ下ニ於キマシテハ、固ヨリ私設鐵道ノ利益ヲ尊重シテ、私設鐵道ニ優先權ヲ與ヘル積リデゴザイマス、第五、國鐵ガ私鐵ヲ壓迫セヌカト云フ御尋デゴザイマスガ、是ハ決シテ壓迫スルヤウナ氣分ヲ持ッテ居リマセヌ、併シ動モスレバ、地方鐵道當局等、即チ國有鐵道ノ地方鐵道局ノ旅客課等ニ於キマシテハ、仕事ニ熱心ナル餘リ、動モスレバ私鐵ト競争スルガ如キ態度ヲ執ルコトガアル、現ニ私ガ鐵道省ヘ入ル以前、昨年ノ二月デゴザイマスカ、數寄屋橋ノ所ヲ通りマスト、彼處ノ「ガード」ニ成田山ノ豆撒ノ廣告ヲ鐵道省ガ出シテ、盛ニ乗客ヲ吸收スル大キナ廣告ガ出テ居ツタノデゴザイマスガ、國有鐵道ト致シマシタナラバ自ラ任務ガアル、ソレヲドウモ成田山ノ節分ノ豆撒ノ廣告マデ繪ヲ描イタモノヲ出シテ、私設鐵道ト競争スルガ如キコトハ、一例デハアリマスケレドモ、斯ウ云フ氣分ハ宜シクナイトシテ、私ハ就任後直チニ局長會議ヲ開イテ、斯ウ云フコトノナイヤウニ、私設鐵道ヲ壓迫セヌヤウニト云フコトヲ、一例ヲ舉ゲテ之ヲ調戒致シタノデアリマシテ、決シテ私設鐵道ヲ壓迫スルヤウナ氣分ハ有ッテ居ラヌト云フコトヲ申上ゲテ御答ト致シマス

○清水徳太郎君 簡單デスカラ此席カラ補足シテ置キタイト思ヒマス

○議長(濱田國松君) 許可致シマス

○清水徳太郎君 只今ノ私設鐵道ノ買収ニ關スル御答辯ハ、私ノ全般ヲ御聽キニナラナイデ、一部分ノコトヲ捉ヘテノ御答辯

デアッテ、是ハ確ニ災ニ懲リテ膾ヲ吹イテ居ラレル結果トシテ、サウ云フ御言葉ガ出クノデヤナカラウカト御察シシマスガ、軍事上ナリ、又運輸系統ノ上ニ於テ、救済ノ意味デヤナクテ、國家ノ見地カラ、國有鐵道ニ買収シタ方ガ宜イト云フ線ガ相當ニアルノデスカラ、若シサウ云フコトガナイト思フテ居ラレルノナラバ、鐵道大臣ハ洵ニ御氣ノ毒デスガ、素人デ居ラシヤルト思フノデス、ソレハ議論ニナリマスカラ、此程度ニ止メテ置キマシテ、詳細ハ委員會ニ讓リタイト思ヒマス

○議長(濱田國松君) 各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リヲ致シマス

○青木雷三郎君 日程第二及第三ハ、兩案ヲ一括シテ議長指名十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○青木雷三郎君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際前田米藏君外四十八名提出、航空國策樹立ニ關スル建議案ヲ議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス
○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、航空國策樹立ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、建議委員長ノ報告ヲ求メマス——田中祐四郎君

航空國策樹立ニ關スル建議案(前田米藏君外四十八名提出) (委員長報告)
航空國策樹立ニ關スル建議案
航空國策樹立ニ關スル建議案
政府ハ民間航空ノ使命ト其ノ世界的大勢トニ鑑ミ即時航空國策ヲ樹立シテ其ノ實現ヲ期セラレコトヲ望ム
右建議ス

報告書
一航空國策樹立ニ關スル建議案(前田米藏君外四十八名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十年二月二十三日
建議委員長 田中祐四郎
衆議院議長濱田國松殿

〔田中祐四郎君登壇〕
○田中祐四郎君 只今緊急上程ニナリマシタ航空國策樹立ニ關スル建議委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申シマス、此建議ハ御承知ノ如ク各派一致ノ提案デアリマシテ、去ル二十三日ノ建議委員會ニ於キマシテ、特別ノ取扱ヲ致シタ案件デアリマス、提案ノ趣旨ハ上原平太郎君カラ説明ガアリマシタ、

之ニ對シテ二三ノ委員諸君カラ、提案者竝ニ政府當局ニ對シテ質疑應答ヲ重ネマシテ、慎重ニ之ヲ審議致シタノデアリマス、航空事業ノ充實ハ、交通上、産業上、或ハ又文化上、喫緊急要ノ事業デアルコトハ勿論デアリマスルガ、既ニ國防上ニ於キマシテハ、相當近來擴張ガ出來マシテ、大ニ人心ヲ強ウスルコトガ出來テ居リマスルガ、民間ノ航空事業ハ他國ノソレニ比シマシテ、極メテ貧弱幼稚ナル、之ヲ又都市ニアリマシテハ、國防ノ第二線ニ働キ掛ケネバナラヌ事業デアリマスガ爲ニ、國家ト致シマシテハ、是非共急速ニ是ガ進展ヲ圖ラネバナラヌ、斯ウ云フ急要性ヲ認メマシテ、慎重審議ノ上、委員會ハ滿場一致之ヲ可決致シタ譯デアリマス、是ガ建議案ノ内容ニ付キマシテハ、本會ニ於テ提出者ノ中ヨリ説明サレルヤウデアリマスカラシテ、私ハ唯其經過竝ニ結果ダケヲ、簡單ニ御報告申上ゲテ置ク譯デアリマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 討論ニ入りマス、竹内友治郎君

〔竹内友治郎君登壇〕
○竹内友治郎君 只今日程ニ上ッテ居リマスル航空國策樹立ニ付キマシテ、此案ニ付テ建議委員長ノ御報告ニ對シテ、私ハ滿腔ノ熱意ヲ以テ贊成致ス者デゴザイマス、茲ニ其贊成意見ヲ開陳致シタイト思ヒマスガ、暫ク御清聴ヲ請ヒタイト思ヒマス(謹聽)

航空國策ト申シマスル以上、筋合ト致シマシテハ、獨リ民間航空ダケデナク、國軍ノ航空勢力ハ、當然此問題ニ包含サレルノデアリマスガ、此點ニ關シマシテハ、建議委員長カラ御述ニナリマシタル通りニ、陸海軍當局ノ御施設ニ對シマシテ信頼スルト云フ意味ニ於キマシテ、本建議案ハ専ラ民間航空ヲ目指スモノデゴザイマス、併ナガラ性質上民間航空ト國軍ノ航空トハ密接不可分ノ關係ガアル、即チ國民ナシニ國軍ナシト云フ大本義ト少シモ變リアリマセヌ、隨テ私ガ贊成趣意ヲ述ベマスニ付テハ、自然國軍ノコトニ言及スルコトアルベシト、御承知置キテ請ヒマス、楮テ御承知ノ如ク我ガ民間航空ノ現狀ト云フノハ、不振、貧弱、實ニ沙汰ノ限リデゴザイマス、一言ニ申シマスルト、現代ハ全ク航空時代デアル、此世界の大勢カラ置キ去リニサレタルノ感ガアルノデゴザイマス、是デ私ハ我が朝野ヲ通ジテ實ニ能ク平氣デ居ラル、モノデアアルカナト慨嘆ニ堪ヘマセヌ、航空ノ事ニ付テ稍、認識ヲ有ッテ居ラル、方々デモ、是ガ國防上ニ必要デアルト云フ程度ノ認識デアリマス、焉ゾ知ラン世界の大勢ハ、實ニ日常ノ文化生活、産業活動ノ上ニ缺クベカラザルノ交通機關トマデ相成ッテ居ルコトガ、現在ノ世界ノ大勢デアル、之ヲ少シモ我が朝野ハ心得テ居ラヌ狀態ニ在ルコトヲ、洵ニ遺憾ニ存ズル者デアリマス(拍手)此航空事業ガ最モ發達致シマシタル歐米各國ニ於キマシテモ、此出發點ハ矢張國防上ノ必要ニ驅ラレテ、茲ニ注意シタト云フコトハ申ス迄モゴザイマセヌ、然レドモ此現代文明ノ最尖

ノ航空勢力ハ、當然此問題ニ包含サレルノデアリマスガ、此點ニ關シマシテハ、建議委員長カラ御述ニナリマシタル通りニ、陸海軍當局ノ御施設ニ對シマシテ信頼スルト云フ意味ニ於キマシテ、本建議案ハ専ラ民間航空ヲ目指スモノデゴザイマス、併ナガラ性質上民間航空ト國軍ノ航空トハ密接不可分ノ關係ガアル、即チ國民ナシニ國軍ナシト云フ大本義ト少シモ變リアリマセヌ、隨テ私ガ贊成趣意ヲ述ベマスニ付テハ、自然國軍ノコトニ言及スルコトアルベシト、御承知置キテ請ヒマス、楮テ御承知ノ如ク我ガ民間航空ノ現狀ト云フノハ、不振、貧弱、實ニ沙汰ノ限リデゴザイマス、一言ニ申シマスルト、現代ハ全ク航空時代デアル、此世界の大勢カラ置キ去リニサレタルノ感ガアルノデゴザイマス、是デ私ハ我が朝野ヲ通ジテ實ニ能ク平氣デ居ラル、モノデアアルカナト慨嘆ニ堪ヘマセヌ、航空ノ事ニ付テ稍、認識ヲ有ッテ居ラル、方々デモ、是ガ國防上ニ必要デアルト云フ程度ノ認識デアリマス、焉ゾ知ラン世界の大勢ハ、實ニ日常ノ文化生活、産業活動ノ上ニ缺クベカラザルノ交通機關トマデ相成ッテ居ルコトガ、現在ノ世界ノ大勢デアル、之ヲ少シモ我が朝野ハ心得テ居ラヌ狀態ニ在ルコトヲ、洵ニ遺憾ニ存ズル者デアリマス(拍手)此航空事業ガ最モ發達致シマシタル歐米各國ニ於キマシテモ、此出發點ハ矢張國防上ノ必要ニ驅ラレテ、茲ニ注意シタト云フコトハ申ス迄モゴザイマセヌ、然レドモ此現代文明ノ最尖

端ヲ行キマス所ノ航空、此航空ガ有ツ必然性ノレガ人類ノ生活ニ當然及ボス、ベキ威力、效用ト云フモノヲ、彼等歐米列國人ハ最モ早ク認識シ、最モ早ク之ヲ實際化スル上ニ於テ、驚クベキ慘澹タル犠牲ヲ拂ッテ居ルノデアリマス、其結果ハ遂ニ今日ノ如ク航空ガ日常生活ニ缺クベカラザルモノニナツタ、斯クテソノ初メテ最初ノ出發點デアリマシタル、國防ノ道具トシテ役ニ立ツト云フ道理ガ、愈ハツキリ證明サレタノデアリマス、ソコデ私ハ甚ダ滿場ノ賢明ナル諸君ニ對シ、所謂釋迦ニ説法ラスルト云フ憾ミヲ免レマセヌノデゴザイマスガ、歐米各國ノ現狀ハドシナモノデアリカト云フコトヲ、暫ク申上、ゲルコトノ御許シヲ得タイノデアリマス、ソレハ此議場ヲ通ジテ、全く無自覺デアル國民ノ目ヲ醒シタイト存ズルカラデアリマス、又國民ノ自ヲ醒スニ非サレバ、決シテ此偉大ナル航空事業ト云フモノヲ大成スルコトガ出來ナイ、斯ル確信ノ下ニ御迷惑デゴザイマスルガ、暫ク歐米列國ニ於ケル航空界ノ現狀ノ一端ヲ申上、ゲルコトノ御許シヲ願ヒマス

歐米ノ民間航空ノ狀況ヲ悉ク申上、ゲルコトハ、勿論不可能デモゴザイマスシ、又其必要モゴザイマセヌ、ソレデ私ハ一例ト致シマシテ、英吉利ニ於テ民間航空ガ、現在ノ如キ盛況ニ達シタル次第ノ一端ヲ申上、ゲルコトニ致シタイト存ジマス、英吉利ニ於ケル民間航空ハ、今日ハ既ニ朝野官民ノ驚クベキ協力、努力ニ依リマシテ、英吉利國

内ニ於ケル民間航空ハ、最早政府ノ補助ヲ得ズニ、獨立獨行シテ出來ル程度ニマデ發達致シマシタ、此處マデ立到リマスルニ付テ、英吉利ノ民間航空ガ如何ニシテ斯ノ如キ成績ヲ擧ゲタカト云フ次第ハ、御承知ノ通り世界大戰ノアノ苦キ經驗ニ彼等ガ懲リタ結果、是ハドウシテモ民間航空ヲ發達サセナケレバナラヌト云フコトデ、今日ヨリ十一年前、即チ千九百二十四年、其時ニ上ハ皇室ヲ初メ、國民擧ツテノ一ツノ成案ガ出來タノデアリマス、ソレハ政府ノ發令ニ基イテ、我國デ言フナラバ公益法人組織ノ飛行俱樂部、是ガ出來マシテ、實ニ現皇帝「ジョージ」陛下ガ總裁トナラレテ、此俱樂部ノ事業ヲ統轄サレテ居ルノデゴザイマス、此飛行俱樂部ハ英吉利本國內ニ二十幾ツカノ俱樂部ガ出來テ居ルノミナラズ、屬領地全般ニ亙ッテ此航空俱樂部ノ事業ガ悉ク行ハレテ居リマス、此俱樂部ハドウ云フ仕事ヲ致シタカト云フト、第一ニ航空事業ノ基礎事業タル飛行場、之ニ伴フ航空燈臺、無線電信聯絡所、若クハ「ラデオ・ビーコン」、斯ウ云フ設備ヲ英吉利本國內隈ナク建設致シタノデアリマス、ソレデ、現在英吉利ニハ四百箇所ノ飛行場ガアリマス、政府ノ即チ國軍ノ有ツ飛行場ハ無論此外ニアリマス、而シテ此四百箇所ニ上ル飛行場ハ、何デソシテ必要デアリカト云フト、是ハ恰度鐵道デ言フナラバ實ニ鐵道線路デアル、試ニ之ヲ日本ノ現在ノ設備ニ較ベテ言ヒマスト、御承知ノ通り東京大阪間、是ガ日本ノ

航空路ノ一番大切ナ幹線デアリマスルガ、此東京大阪間ニ於テ、飛行場ハ唯一ツ宛有ルヨリ外ハアリマセヌ、然ルニ英吉利デハ、此東京大阪間ノ距離ニ對シテ、五里乃至七里毎ニ必ず飛行場ヲ置イテ居ル、是デアリマスカラ、飛行機ト云フモノハ、絕對ニ安全デアルノデアリマス、此四百箇所以上ニ上ル飛行場ヲ設置スルト云フ仕事ハ、大部分此民間ニ於ケル飛行俱樂部ガ受持ツノデアリマス、其費用ハ、設立當初ニ於テハ政府カラ補助ヲ受ケタコトハゴザイマスケレドモ、爾來全ク地方自治體及有志ノ寄附金ニ依ッテ是ハ賄ハレテ居ルト云フ、實ニ是ハ官民協力ノ產物デアルノデアリマス、而シテ此飛行俱樂部ハ、今一ツ重大ナル任務ヲ有ツテ居リマス、ソレハ飛行士ヲ養成スルト云フ仕事デアリマス、是ガ今日デハ民間航空ニ從事スル所ノ飛行士ヲ、年々六百人ツツ養成シテ居リマスルガ、イザ非常時ト云フ時ニナレバ、月ニ六百人ツツ養成シ出シテ、ソレヲ以テ國軍ノ航空勢力ノ補充ニ充テルト云フ計畫ニナツテ居ルノデゴザイマス、一年ニ六百人養成スルト云フコトデサヘモ、是非非常ナ大事業デアリマス、然ルライザ非常時ニナルト云フト、月ニ六百人ヲ造出スト云フ設備ハ、驚クベキ廣大ノモノデアルト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、此大事業ヲ民間ノ公益法人タル飛行俱樂部ガ擔ツテ居ルノデアリマス、更ニ今一ツノ此飛行俱樂部ノ仕事ハ、英吉利全體ニ對シテ、此飛行ニ關スル一般ノ輿論ヲ喚起シテ、國ヲ

舉ゲテ飛行熱ニマデ熱中サセルト云フダケノ空氣ヲ作り上ゲルト云フ此仕事、是ガ實ニ英吉利ノ民間航空ヲ、今日ノ如ク盛況ニ達セシメタル背景デゴザイマス、デゴザイマスカラ、現ニ民間航空ノ現狀トシテ、英國皇太子ガ自家用ノ飛行機ヲ七臺カラ持ッテ居ラツシヤル、之ニ做ッテ民間ノ貴族富豪、是等ガ自家用トシテ持ッテ居ルモノガ七百臺、實ニ驚クベキ盛況デス、嘗ニ此飛行機ヲ旅行用或ハ其他ノ仕事ニ用ヒルバカリデナク、丁度我國ノ「ゴルフ」熱、或ハ「スキー」熱、野球熱ト同ジ風ニ、道樂トシテ、趣味トシテ飛行機ヲ民間ニ於テ、盛ニ飛バシテ居ルト云フ盛況ニ達シテ居ルノデゴザイマス、現在ノ民間飛行ノ實際勢力ヲ申シマスト云フト、民間デ造ッテ飛行場ガ、前申上、ゲタ通り四百、ソレカラ現在飛行機ガ千五百機、飛行士ガ、職業トシテ現ニ從事シテ居ル者ガ四千百人、其他「スポーツ」トシテ、趣味トシテ、所謂道樂ノ意味デ以テ乗り得ル人ガ、現在ニ於テ少クトモ五千ヲ下ラヌト云フコトデゴザイマス、大體ニ於テ英吉利民間航空勢力ノ要部ヲ爲ス所ノ飛行士ガ、現在ニ於テ約一万人ニ上ツテ居ルト云フコトデアリマス、之ヲ數字ヲ以テ我國ノ現狀ニ比較致シマスト云フト、斯ウ云フコトニナリマス、我國デハ民間航空ノ持ッテ居ル飛行場ガ、全國悉ク浚ヒ上ゲテ九箇所シカアリマセヌ、飛行機ガ僅ニ民間航空機トシテ百五十二、飛行士ガ五百八十九人ト云フ英吉利ニ較ベマシテ、何トモ申

航空路ノ一番大切ナ幹線デアリマスルガ、此東京大阪間ニ於テ、飛行場ハ唯一ツ宛有ルヨリ外ハアリマセヌ、然ルニ英吉利デハ、此東京大阪間ノ距離ニ對シテ、五里乃至七里毎ニ必ず飛行場ヲ置イテ居ル、是デアリマスカラ、飛行機ト云フモノハ、絕對ニ安全デアルノデアリマス、此四百箇所以上ニ上ル飛行場ヲ設置スルト云フ仕事ハ、大部分此民間ニ於ケル飛行俱樂部ガ受持ツノデアリマス、其費用ハ、設立當初ニ於テハ政府カラ補助ヲ受ケタコトハゴザイマスケレドモ、爾來全ク地方自治體及有志ノ寄附金ニ依ッテ是ハ賄ハレテ居ルト云フ、實ニ是ハ官民協力ノ產物デアルノデアリマス、而シテ此飛行俱樂部ハ、今一ツ重大ナル任務ヲ有ツテ居リマス、ソレハ飛行士ヲ養成スルト云フ仕事デアリマス、是ガ今日デハ民間航空ニ從事スル所ノ飛行士ヲ、年々六百人ツツ養成シテ居リマスルガ、イザ非常時ト云フ時ニナレバ、月ニ六百人ツツ養成シ出シテ、ソレヲ以テ國軍ノ航空勢力ノ補充ニ充テルト云フ計畫ニナツテ居ルノデゴザイマス、一年ニ六百人養成スルト云フコトデサヘモ、是非非常ナ大事業デアリマス、然ルライザ非常時ニナルト云フト、月ニ六百人ヲ造出スト云フ設備ハ、驚クベキ廣大ノモノデアルト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、此大事業ヲ民間ノ公益法人タル飛行俱樂部ガ擔ツテ居ルノデアリマス、更ニ今一ツノ此飛行俱樂部ノ仕事ハ、英吉利全體ニ對シテ、此飛行ニ關スル一般ノ輿論ヲ喚起シテ、國ヲ

舉ゲテ飛行熱ニマデ熱中サセルト云フダケノ空氣ヲ作り上ゲルト云フ此仕事、是ガ實ニ英吉利ノ民間航空ヲ、今日ノ如ク盛況ニ達セシメタル背景デゴザイマス、デゴザイマスカラ、現ニ民間航空ノ現狀トシテ、英國皇太子ガ自家用ノ飛行機ヲ七臺カラ持ッテ居ラツシヤル、之ニ做ッテ民間ノ貴族富豪、是等ガ自家用トシテ持ッテ居ルモノガ七百臺、實ニ驚クベキ盛況デス、嘗ニ此飛行機ヲ旅行用或ハ其他ノ仕事ニ用ヒルバカリデナク、丁度我國ノ「ゴルフ」熱、或ハ「スキー」熱、野球熱ト同ジ風ニ、道樂トシテ、趣味トシテ飛行機ヲ民間ニ於テ、盛ニ飛バシテ居ルト云フ盛況ニ達シテ居ルノデゴザイマス、現在ノ民間飛行ノ實際勢力ヲ申シマスト云フト、民間デ造ッテ飛行場ガ、前申上、ゲタ通り四百、ソレカラ現在飛行機ガ千五百機、飛行士ガ、職業トシテ現ニ從事シテ居ル者ガ四千百人、其他「スポーツ」トシテ、趣味トシテ、所謂道樂ノ意味デ以テ乗り得ル人ガ、現在ニ於テ少クトモ五千ヲ下ラヌト云フコトデゴザイマス、大體ニ於テ英吉利民間航空勢力ノ要部ヲ爲ス所ノ飛行士ガ、現在ニ於テ約一万人ニ上ツテ居ルト云フコトデアリマス、之ヲ數字ヲ以テ我國ノ現狀ニ比較致シマスト云フト、斯ウ云フコトニナリマス、我國デハ民間航空ノ持ッテ居ル飛行場ガ、全國悉ク浚ヒ上ゲテ九箇所シカアリマセヌ、飛行機ガ僅ニ民間航空機トシテ百五十二、飛行士ガ五百八十九人ト云フ英吉利ニ較ベマシテ、何トモ申

シヤウナキ不振アリデアノデアリマス、殊ニ少シ内容ヲ申上ゲマスルト、民間飛行機ノ百五十二、是ガ大部分ハ陸海軍デ使ヒ古シノ、極ク古イノモノヲ拂下若クハオ貰ヒシタト云フ種類ノモノガ大部分デス、本當ニ金ヲ出シテ買ツタ民間飛行機ト云フモノハ、政府カラ補助ヲ戴イテ居ル航空會社ニ、恐ラク二十以下位ノモノデセウ、其外デ先ヅ飛行機ノ爲ニ、民間デ金ヲ出シテ買ツタト云フモノハ、新聞社位ノモノデハナイカト思ヒマス、勿論自家用飛行機ナド、云フモノハ藥ニシタクモナイ、斯ウ云フ現状デス

ソコデ此際英吉利ノ民間航空ト、英吉利ノ空軍ノ關係ヲ簡單ニ一言申上ゲマス、英吉利空軍ノ權威者ノ發表スル所ニ依リマス、斯ウ云フコトヲ申シテ居リマス、是ハ少シ懸値ガアルト思ヒマスガ、斯ウ申シテ居リマス、明日英吉利ガ開戦スルトシテ、現在英吉利空軍ガ持ツテ居ル空軍勢力ト云フモノハ、三週間デ以テ全ク消耗シテシマフ、後ハ現在ノ民間航空勢力ガ三箇月間續ク、其先ハ毎月六百人宛民間航空デ養成シ來タル者ヲ以テ、陸海軍ノ航空勢力ヲ維持スル、斯ウ云フ計畫デアルト申シテ居リマス、之ヲ見テ先ヅ考ヘラル、コトハ、實際英吉利ノ國ノ費用デヤツテ居ル空軍ト云フモノハ比較的ニ小サイ、アノ佛蘭西トカ、獨逸トカ大變優勢ナ空軍ヲ持ツテ居ル中ニ立ッテ居テ、僅ニ空軍ノ現有勢力一千八百機デアリマス、是ハ日本デ云フト陸海軍ヲ

通ジテノ數デアリマスカラ、決シテ大キナ數デナイ、詰リ是ハ民間航空勢力ヲ、イザトナツタラ頼ムト云フ肚ガアルカラ、斯ノ如キ經濟的軍備デ間ニ合セテ居ル譯デアアルデアリマス、所ガ此處デ考フベキコトハ、英吉利ノ國ハ極メテ經濟的ノ軍備ヲスル、民間航空ハ全ク力ト金ヲ犠牲ニナル、是ハ一寸不思議ニ考ヘラレル、殊ニアノ勘定高イ英吉利人ガ、何故斯ウ云フ犠牲ニ甘ズルカト云フコトヲ考ヘ來ル所ニ、茲ニ一ツドウシテモ空軍ニ頼ラナケレバナラヌ已ムヲ得ザル理由ガ、其裏ニ潜ンデ居ルコトヲ窺ヘルノデアリマス、ソレハ「スビード」ヲ出シテ早クヤレト呼フ者アリ、簡單ニヤリマス、諸君御承知ノ通りニイザ非常時ト云フ時ニ於テ、戰場ニ於ケル飛行士ノ任務ハ、詰リ偵察、爆撃、戦闘ノ此三ツノ仕事デアアル、所ガ此中最モムツカシイノハ戦闘デアリマス、コチヲノ飛行機ガ行ッテ向フノ飛行機ヲ射落スト云フ仕事、此仕事ハ歐洲大戰ノ例ニ鑑ミテ、年ヲ取ツタ者ハ全ク役ニ立タナイ、是ハ必ズ若イ者ニ限ル、實際歐洲大戰ニ於テ一人デ五十機乃至八十機ト云フ多クノ敵機ヲ射落シタ者ハ、何レモ二十代ソコノ飛行士デアアルサウデアリマス、斯ウ云フ次第デアアル、若シ此戰時ニ必要ナル飛行士全部ヲ、悉ク國軍デ平素カラ用意シテ置クト云フコトニナリマスト、勢ヒ是ハ豫後備制度ニナリマスカラ故ニ、澤山ノ年ヲ取ツタ飛行士ヲ抱ヘルコトニナリマスカラ、戦闘ノ際ニ於テ一番大切ナ任

務ニ不適當ノ人ガ多クナルト云フコトニナルデアリマス、之ヲ防イデ本當ノ最新最鋭ノ飛行士ヲ造ツテ行クト云フコトハ、ドウシテモ民間航空ニ頼ルニ非ンバ出來ナイ、斯ク英吉利空軍ノ當局者ハ聲明致シテ居ルデアリマス、是ハ我が陸海軍ノ事情ニ照シテ、當嵌ルヤ否ヤハ私ノ斷言スル限デアリマセヌガ、併シ歐羅巴大戰ノ經驗ニ鑑ミタル英吉利當局ノ、民間飛行士ニ依頼スルノ此言ハ、相當合理的デアリ、耳ヲ傾クベキコトデハナイカト私ハ思フノデアリマス、ソコデ更ニ他ノ歐羅巴列國、佛蘭西デアアルカ獨逸ニ於テ、是等民間航空ガ如何ニ盛ンデアルカト云フコトハ、是ハ大體英國ト同様ノ状態デアリマスカラ、是ハ省キマス、唯私ハ北米合衆國ニ於ケル狀況ヲ極ク簡單ニ一言致シマス、ソレハ紐育華盛頓ノ間、アノ間デ、定期ニ發著スル飛行機ガ毎日十回發著致シテ居ル、私ハ我が日本ノ東京大阪間デハ急行列車デモ是程ハ出テ居ルマイト思ヒマス、ソレカラ北米合衆國內ノ東西横斷、即チ紐育カラ桑港又ハ「ロスアンゼルス」マデ參リマス航空路、是ハ汽車デ行キマス、ト、ドンナ最大急行デモ四晝夜ヲ要スルノデアアルガ、僅カ二十時間デ旅行出來ル定期航空ヲ毎日行ツテ居ル、而モソレヲ三會社デ競争致シテ居ル、如何ニ亞米利加ニ於ケル航空ガ日常生活ニ缺クベカラザル状態ニナツテ居ルカト云フコトハ、此點ニ於テ親ヒ知ルニ餘リアルト存ズルノデアリマス、ソコデ序ニ今一ツ歐米ノ民間航空

ノ盛況ヲ窺フ一ト致シマシテ、國際航空路ノ現況ヲ極ク簡單ニ申上ゲマス、英吉利ハ倫敦ヲ起點トシテ露西亞ノ浦潮斯德ヘ行ク定期航空路ガ一ツ、新嘉坡ヲ經テ「シドニー」ニ行キマス航空路ガ一ツ、南阿弗利加ノ南阿聯邦カラ「ケープタウン」迄行キマス航空路ガ一ツ、斯ウ云フ風ニ何レモ一万軒以上ノ國際航空路ヲ、定期發著致シテ居ル、而シテ此航空路ハ何レモ汽船デ行キマス三分ノ一以下ノ日數デ、之ヲ旅行致スコトガ出來ルト云フ譯デアリマス、佛蘭西ハ矢張巴里カラ新嘉坡ヲ經テ、印度支那ノ柴棍カラ河内マデ參リマス一線ト、西半球ノ南亞米利加ノ「ヴェノスアイレス」マデ參リマス所ノ線ガ一ツ、之ヲ定期航空致シテ居リマス、和蘭デサヘモ「アムステルダム」「バタビヤ」間ノ定期航空路ヲ有ツテ居ッテ、英佛以上ノ成績ヲ擧ゲテ居ルト云フコトデアリマス、而シテ北米合衆國ハ、南北亞米利加ヲ一手ニ獨占スルト云フ意氣込ヲ以テ、桑港ヲ起點ト致シマシテ、墨西哥、古倫比亞、智利、進ンデ亞爾然了ノ「ヴェノスアイレス」マデニ到ル航空路ヲ一手デ掌握致シテ居リマス、斯ウ云フ狀況デアリマスカラ、世界地圖ヲ開イテ見ルト、日本ヲ中心ト致シマシテ、東西南北カラ外國ノ航空路線ガ日本ニ肉迫シテ居ルト云フ状態デアアルデアリマス、然ルニ日本ハ國際航空線ハ一本モ有ツテ居ラヌ、強テ申セバ、東京新嘉間ハ國際航空線ト申セマセウガ、是ハモウ大體國內線ニ外ナラヌ、斯ウ云フ驚クベ

ノ盛況ヲ窺フ一ト致シマシテ、國際航空路ノ現況ヲ極ク簡單ニ申上ゲマス、英吉利ハ倫敦ヲ起點トシテ露西亞ノ浦潮斯德ヘ行ク定期航空路ガ一ツ、新嘉坡ヲ經テ「シドニー」ニ行キマス航空路ガ一ツ、南阿弗利加ノ南阿聯邦カラ「ケープタウン」迄行キマス航空路ガ一ツ、斯ウ云フ風ニ何レモ一万軒以上ノ國際航空路ヲ、定期發著致シテ居ル、而シテ此航空路ハ何レモ汽船デ行キマス三分ノ一以下ノ日數デ、之ヲ旅行致スコトガ出來ルト云フ譯デアリマス、佛蘭西ハ矢張巴里カラ新嘉坡ヲ經テ、印度支那ノ柴棍カラ河内マデ參リマス一線ト、西半球ノ南亞米利加ノ「ヴェノスアイレス」マデ參リマス所ノ線ガ一ツ、之ヲ定期航空致シテ居リマス、和蘭デサヘモ「アムステルダム」「バタビヤ」間ノ定期航空路ヲ有ツテ居ッテ、英佛以上ノ成績ヲ擧ゲテ居ルト云フコトデアリマス、而シテ北米合衆國ハ、南北亞米利加ヲ一手ニ獨占スルト云フ意氣込ヲ以テ、桑港ヲ起點ト致シマシテ、墨西哥、古倫比亞、智利、進ンデ亞爾然了ノ「ヴェノスアイレス」マデニ到ル航空路ヲ一手デ掌握致シテ居リマス、斯ウ云フ狀況デアリマスカラ、世界地圖ヲ開イテ見ルト、日本ヲ中心ト致シマシテ、東西南北カラ外國ノ航空路線ガ日本ニ肉迫シテ居ルト云フ状態デアアルデアリマス、然ルニ日本ハ國際航空線ハ一本モ有ツテ居ラヌ、強テ申セバ、東京新嘉間ハ國際航空線ト申セマセウガ、是ハモウ大體國內線ニ外ナラヌ、斯ウ云フ驚クベ

キ世界の進歩ヲ控ヘテ、我國ハ頓ト振ツテ居ラナイト云フ情勢デアリマス、ソコデ私ハ以上申述べタル次第ニ依リマシテ、歐米列國ノ状態ト、我國ノ民間航空トノ懸隔ノ、餘リニ大キイノニ驚カザルヲ得ナイノデアリマス、私ハ相當ニ此問題ノ必要性ヲ考ヘル上ニ於テ、暫ク御靜聽ヲ請ヒタイト存ジマス、丁度此懸隔ハ明治三十年代、アノ時ニ歐米各國ハ既ニ電車自動車ガ日常ノ交通機關トシテ盛ニ行ハレテ居タノニ、我國デハ東京市ノ交通機關デサハモ電車自動車ハ一ツモナイ、馬車ト人力車ニノミ依頼シテ居タ、此懸隔ト能ク似テ居ルト思ヒマス、諸君、若シ今日デナクテモ、十年前ト假定致シマシテモ、相變ラズ三十年代ノ鐵道馬車乃至人力車ダケニ頼ル東京市ノ交通機關デアッタナラバ、ソレガドノ位市民ノ文化生活ヲ脅スカ、多分恐ラク日常生活ガ殆ド行詰ルデアラウト思ヒマス、之ヲ考ヘマス、道理ニ二ツハアリマセヌ、歐羅巴及ビ亞米利加ガ、既ニ現代ノ交通機關ノ最尖端ヲ行キ、航空ガ日常化シテ居ルノニ、我國ガ少シモ之ニ及バヌト云フコトハ、結局我國ノ産業及ビ文化ガ何時カ破綻スルコトナシト限ラヌト覺悟シナケレバナラヌト思ヒマス、斯ウ云フ考カラ、私ハ是ハ一刻モ猶豫スルコトノ出來ナイ重大問題、而モソレハ決シテ國防ダケノ問題デナク、殊ニ吾々ノ文化生活、産業活動ノ上ニ於テ、少シモ猶豫スルコトノ出來ナイ問題デアルト考ヘルノデアリマス(拍手)

次ニハ國防の見地ニ立チマシテ一言スルコトヲ、御許シテ願ヒタイト思ヒマス、御承知ノ通り今日航空勢力ガ陸海軍ノ勢力ノ上ニ加ツタルガ爲ニ、戰爭ヲスル方式ガ革命的ニ一變シタト云フコトデアリマス、其結果トシテ此島國デアアル我が日本帝國ハ、英吉利同様ニ從來ハ國防上非常ナ防禦力ヲ天惠的ニ有ツテ居タ特別ナ利益ガアツタニモ拘ラズ、飛行機ガ出來タ爲ニ、其防禦力ノ價值ト云フモノハ激減致シタコトデアリマス、之ヲ補ヒマス方法ハ、全ク航空勢力ヲ、國軍トシテモ民間ノ航空勢力トシテモ充實スル外ニ、此戰鬪上ニ於ケル革命的變化ニ對シテ、對應スル途ガナイト云フコトヲ考ヘルノデアリマス、吾々ガ航空策樹立ニ對シテ大ニ切言スル所以ハ、自ラ理由アリト云フコトヲ御諒知願ヘルト思フノデアリマス、斯ウ云フ次第デアリマスカラ、政府ハ一日モ早く之ニ關スル國策樹立ヲ爲サレシコトヲ切望セザルヲ得ナイ、從來何デ政府ガ此重大問題ヲ閉却ナスツテ居タノカ、殆ド諒解ニ苦シムノデアリマス、是ハ獨リ吾吾ガ諒解ニ苦シムバカリデナク、此憂ヲ有ツテ居ル者天下ニ少クナイノデアリマス、ドウカ政府ハ此憂ヲ解クベク速ニ航空國策樹立ノ計ヲ立テラレシコトヲ切望セザルヲ得ナイ、政府ハ色々ノ質問ニ對シテ、曾テ此民間航空ハ必要デナイナド、云フコトヲ仰シヤツテハ居ラス、如何ニモ御尤ダ、極メテ必要ダト云フコトノ御答辯ガアツタニ拘ラズ、實際ノ施設ハ不幸ニシテ少シモ之ニ伴ッ

テ居ラナイ、全ク空言ニ終ツテ居ルノデゴザイマス、ソレデ私ハ又從來通り空言ニ終リハセヌカト云フコトヲ疑ハザルヲ得ヌノデアリマスカラ、此際岡田内閣總理大臣ニ於カレマシテハ、此建議案ガ恐ラク三派共同提出デゴザイマスルカラ、無論本案ハ通過スルコト、存ジマスルガ、ドウカ必ズ是ハ責任ヲ以テ、國策樹立ヲ斷行スルト云フコトニ聲明ヲ、賜リタイノデゴザイマス、承ル所ニ依ルト、最近床次遞信大臣ニハ、貴族院ニ於テ來年以後巨額ノ豫算ヲ計上シテ、此仕事ヲヤルト云フコトノ御聲明ガアツタ趣キ承ツテ居リマス、所ガ私ハ之ヲ從來遞信省デオヤリニナツタ如クニ、國民全體ニ懇ヘ、國論ヲ喚起スルト云フ御働ヲナサラスシテ、單ニ豫算ヲ計上シテ大藏省ヘ要求スルト云フコトデハ、是ハ到底私ハ如何カト怪マザルヲ得ヌノデアアル、先以テ此必要ヲ認識シ、且ツ歐米ニ於テ如何ニ官民協力一致デ、此大業ヲ爲シ遂ゲ得タカト云フ實例ニ鑑ミテ、先以テ國論ヲ喚起シテ、國民ノ血ヲ沸カスマデニ痛烈ナル空氣ヲ作り出スベク、政府ガ重大ナル決心ノ下ニ此仕事ヲオヤリニナツテ、而シテ後ニドシナ大キナ豫算ヲ御出シニナラウトモ、恐クハ大藏省トモ是ハ削除スルコトガ出來ナイ、此點ハ民衆政治家ノ巨擘ノ一人デアアル床次遞信大臣、無論其邊ノ御用意ニ缺ケル筈ハナイトハ信ジマスルガ、私ハ此仕事ノ必ズ最近ニ一日モ早く成績ヲ擧ゲルコトヲ希ヒマス餘リ、特ニ斯ウ云フ餘計ナ御注意マデ申上ゲル次第デゴ

- 議長(濱田國松君) 起立總員(拍手)仍テ本案ハ可決サレマシタ
- 青木雷三郎君 議事日程變更ニ關スル緊急動議ヲ提出致シマス、即チ日程第十一乃至第二十三ヲ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス
- 議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
- 〔異議ナシト呼フ者アリ〕
- 議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、日程第十一及第十二ハ同一委員ニ付託シタル議案ナルニ依リ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ
- 〔異議ナシト呼フ者アリ〕
- 議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第十一、大正九年法律第五十六號中改正法律案、日程第十二、大正九年法律第五十六號中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——横川重次君

第十一 大正九年法律第五十六號中改

正法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)(東武君外五名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 大正九年法律第五十六號中改

正法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)(山本厚三君外四名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一大正九年法律第五十六號中改正法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)(東武君外五名提出)

一大正九年法律第五十六號中改正法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)(山本厚三君外四名提出)

右ハ本院ニ於テ兩案ヲ併合シ別紙ノ通(内容同一)修正スベキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十年二月二十五日

委員長 横川 重次

衆議院議長濱田國松殿

(別紙)

大正九年法律第五十六號中左ノ通改正ス

同法ニ左ノ一項ヲ加フ
政府ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ期間ノ外更ニ五年ヲ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ北海道拓殖費ヨリ補助ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ昭和十年四月一日ヨリ施行ス
本法施行ノ際營業開始ノ日ヨリ十五年ヲ

經過シタルモノニ付テハ營業開始ノ日ヨリ二十年ニ達スル迄本法施行ノ日ヨリ改正規定ニ依リ更ニ補助ヲ爲スコトヲ得

(横川重次君登壇)

○横川重次君 只今議題ニナツテ居リマス

大正九年法律第五十六號中改正法律案、東武君外五名提出、及山本厚三君外四名提出ニ係ルモノデアリマスガ、兩案ノ委員會ノ審査ノ報告ヲ申上ゲマス、大正九年法律第五十六號ハ、北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件デアリマシテ、改正案ノ趣旨ハ、現行法ニ於ケル補助年限十五年ヲ二十年ニ延長セシメタイト云フデアリマス、委員會ニ於キマシテハ、各委員ニ依リ鐵道、内務、北海道當局ニ對シマシテ熱心ナル質疑應答ガ行ハレタノデアリマスガ、茲ニハ極ク其概要ノミヲ御報告申上ゲルコトニ致シマシテ、御諒解ヲ得タイト思フデアリマス、北海道ニ於ケル私設鐵道及軌道一般ガ、現行ノ補助年限ニ於テ其補助ヲ打切ラレマシテ、獨立シ得ラレルヤ否ヤト云フ點ガ、先ヅ第一ニ重要ナル點トシテ質疑セラレタノデアリマス、申ス迄モナク鐵道軌道ノ發達ハ、拓殖事業ノ根基ヲ爲スモノデアリマシテ、是ガ興廢ハ單ニ經營會社ノ存廢ノ問題デハナイノデアリマシテ、實ニ拓殖、植民ノ成敗ノ岐ル、所ニ繫ルノデアリマスカラ、最モ重大ナル問題デアリマス、現地ノ鐵道軌道ノ經營ノ實情ニ徴シテ之ヲ見マスノニ、補助會社二十二社中、收支辛ウジテ償フモノハ僅ニ二三ニ過ギナイ現

狀ニアルノデアリマシテ、其大部分即チ二十二社中ノ二十社ハ、著シイ缺損ヲ續ケテ居ルヤウナ次第デアリマス、政府ノ助成金ヲ以テ借入金ノ利拂ト爲シテ居ルモノモアリ、洵ニ其營業狀態ハ不振ナノデゴザイマス、之ヲ建設費ニ對シマス收益ノ率カラ申シマシテ、北海道以外ノ實績ト之ヲ比較シテ見マス、軌道ニ於キマシテハ、建設費ニ對シマス收益率ハ、北海道ニ於テ四七%デアリマス、北海道以外ノ全部ニ付テ見マス、五四%ニナツテ居リマシテ、七%ノ開キガゴザイマス、ソレカラ地方鐵道ニ於キマシテハ、建設費ニ對シマス收益率ノ比較ハ、北海道ニ於キマシテハ、一八%、其他ノ地方ニ於キマシテハ、四〇%デアリマシテ、實ニ二二%ノ開キガアルノデゴザイマス、斯様ニ相成ツテ居リマシテ、殆ド總テノ會社ガ補助ヲ受ケナガラ、無配當或ハ無配當ニ近イ程度ノ配當ヲ辛ウジテ爲シ得ルト云フ狀態デアリマシテ、今日補助ノ打切り等ガアリマシタ場合ニ於テハ、廢線ノ已ムナキニ至ル虞アルモノ少シトシナイノデアリマス、政府モ此點ニ關シマシテハ、北海道拓殖計畫進行上ノ齟齬ノ點ト、昭和六年七年及九年ノ相次グ農産物ノ不作ノ二ツノ原因ヲ擧ゲマシテ、未ダ各會社ガ獨立ノ域ニ達シ得ナイ實情ニ在ルコトヲ認メテ居ルノデアリマス、次ニ然ラバ如何ナル理由ニ依ツテ、特ニ著シク該地ノ鐵道、軌道ガ不振ノ立場ニアルカト云フ、眞

ノ原因ヲ究メル意味ニ於キマシテノ質疑ガ

重ネラレタノデアリマス、一般的經濟不況乃至他ノ運輸企業ノ發達等ニ依リ影響ハ、是ハ日本全國ノ問題デアリマスルカラ、茲ニ言フベキ限リデハアリマセヌガ、該地ノ特殊事情ニ依ルモノガアリ得ルト致シマシタナラバ、是ハ十分公平ナル立場カラ、議會ヲ通ジテ之ヲ明カニシ、之ヲ認メテ行カネバナラヌモノト思フデアリマス、今最モ其顯著ナル二三ヲ擧ゲマスルナラバ、第一ハ地理的條件デアリマス、人口密度、是ハ内地ノ十分ノ一デアリ、朝鮮ト比較致シマシテモ、三分ノ一ニ過ギナイ程度ノ、非常ニ稀薄ナル人口ノ密度ヲ有ツテ居リマス、ソレカラ雪害冷害、是ハ皆様夙ニ御承知ノ如ク、一年ノ或ル部分ハ運轉其他ノ不可能ニナル程度ニ迄非常ナル雪害ガアリ、又其爲ニ要シマスル營業費ハ、他ノ地方ニ比較致シマシテ、非常ニ嵩ムト云フヤウナ狀態ニアルノデアリマス、其原因ノ第二ハ金融的條件デアリマス、是ハ朝鮮其他ノ地方ト比較致シマシテモ、非常ニ高金利ニアルト云フコトガ明ニナツタノデアリマス、其理由第三、政府ノ拓殖計畫進行ノ遅延、是ハ昭和二年ニ於キマシテ、二十年計畫ニ依ル北海道拓殖計畫ガ樹立セラレタノデアリマスルガ、其後種々ナル事情ニ依リマシテ、非常ニ齟齬ヲ致シテ居リマスコトハ、政府、北海道長官ノ自ラ證明スル所デアリマシテ、是ガ即チ政府ノ責任ニ於キマシテ、地方私設鐵道ガ、其進行ノ遅々タルニ依ル原因ニ依リマシテ、比較的其思フ如キ進行成

因ニ依リマシテ、比較的其思フ如キ進行成

成

成

成

成

續ヲ擧ゲ得ザル現狀ニアルコトモ、其重大ナル原因ノ一ツニナツテ居ルノデアリマス、其理由第四、拓殖費ノ大削減、是ハ三割以上ノ削減ガセラレテ居リマスノデ、是モ實ニ著シク拓殖事業進行上ノ障害ト相成ッテ居ル、隨テ其鐵道經營其他ニ付キマシテノ惡影響ノアリマスコトハ、是亦當然デアアルデアリマス、其後昭和六年、七年、九年ノ不作、是ハ既ニ前ニ述ベマシタ如キコトデアリマス、大體右様ノ次第デ、朝鮮臺灣等ニ比較致シマシテモ、遙ニ劣ル自然的條件ノ下ニ置カレテ居ルノデアリマシテ、大體以上ノヤウナ事實ガ質疑應答ノ中ニ明カトナツノデアリマス、而シテ既ニ朝鮮、臺灣、樺太ニ於キマシテハ、同様ノ趣旨ニ基キマスル補助ニ對シ、昨年ノ議會ニ於テ各五箇年ノ補助期間ノ延長ヲ決定致シマシテ、北海道ノミガ其改正ニ漏レテ居リマスコトハ、洵ニ不合理不公正ノコトデアリマス、殊ニ最近ノ國際事情ニ鑑ミマシテ、國防觀念ノ常識ニ照シテ之ヲ見マスルモ、北方ノ守リヲ堅ク致シマスル上ニ、鐵道事業ノ寄與スベキコトハ、是ハ明デアルノデアリマス、最モ留意セネバナラヌ點ト思フノデアリマス、委員會ハ以上ヲ以テマシテ討論ニ入りマシテ、林委員ヨリ兩案ヲ併合シ、別紙ノ通り修正スベキモノト議決サレタシトノ動議ノ提出ガアリマシテ、政友委員ノ代表トシテ丸山委員、民政委員ノ代表ト致シマシテ清水委員ヨリ贊成ノ意見ノ陳述ガアリマシテ、全會一致ヲ

以テ可決致シタ次第ゴザイマス、之ニ對シ北海道長官カラ、主トシテ財政上ノ理由ヨリ致シマシテ、本案ノ趣旨ニ違ニ贊成致シ兼ネル旨ノ陳述ガゴザイマシタ以上ガ委員會ノ大體ノ經過及結果ノ報告デアリマスルガ、尙ホ一點特ニ御報告申上グベキコトガアルノデアリマス、ソレハ補助金算定ニ關シマシテ、政府ガ重大ナル誤リヲシテ居ルト云フコトガ、松尾君、林委員、手代木委員等ニ依リマシテ、委員會ニ於キマシテ明ニセラレマシタ點デアリマス、即チ政府ハ大正十一年內務省令第八號ニ依リマシテ、北海道拓殖促進ノ爲必要アリト認ムル地方鐵道及軌道ノ補助施行ニ關スル件」此內務省令ニ依リマシテ、補助金ノ算出ノ様式ヲ定メテ、是ガ明記シテアルノデアリマスガ、即チ第一條ノ第三項ニ於キマシテ「營業費ハ當該地方鐵道及軌道ノ營業費決算額ヲ基礎トシ北海道廳長官ノ査定シタル額」トアリマシテ、補助金ノ算定上ノ基礎トナリマスル所ノ營業費ハ、之ヲ査定スル場合ニハ、當該地方鐵道及軌道ノ營業費ノ決算額ヲ基礎トシテ爲スベキコトヲ規定シテアルノデアリマシテ、北海道長官ノ査定デアレバ何デモ宜イト云フ規定ガハナイノデアリマス、勿論査定スベキ對象ガ茲ニ明ニ規定シテアルノデアリマシテ、此明ナル規定ガアルニモ拘リマセズ、昨年ヨリ致シマシテ、突如トシテ長官ノ任意ノ裁量ニ依リマシテ、營業費決算額ヲ基礎トセザル、即チ營業費決算額ニ全ク關係ノナイ特定ノ公式ヲ基礎ト致

シマシテ、之ヲ計算致シマシテ、內務省令ニ依テ規定セラレテ居リマスル營業費ニ等シキ「ウエート」ヲ以テ之ヲ加算シテ居ルノデアリマス、是ハ明ニ省令ノ規定ニ背反セルモノデアルト思フノデアリマシテ、此點ニ付キマシテハ、前述ノ三委員ヨリ強ク政府ノ反省ヲ求メラレタノデアリマス、若シ經濟上ノ事由其他ニ依リマシテ、計算ノ基礎ヲ變更スル必要アリト致シマスルナラバ、是ハ省令ヲ改正シテ、ソレニ依ッテ行フベキコトガ至當デアルト云フ點ニ付キマシテ、明ニ述ベラレテ居ッタノデアリマス、政府ハ之ニ對シテ研究中デアルト云フヤウナ答辯デアリマシタガ、是ハ事柄ハ相當各軌道、鐵道會社ニ對シマシテハ、重大ナ經濟的影響モアリマスルシ、又法ノ運用ノ上カラ申シマシテモ、斯様ナ自由裁量ヲ餘リニ擴メマスルコトハ、洵ニ立憲法治國ト致シマシテ遺憾ノ次第デアアルノデアリマス、此點ヲ特ニ申添ヘテ置キマス、何卒前段申上ゲマシタヤウナ經過ニ依リマシテ可決致シタノデアリマスルカラ、委員會ノ決定通り御贊成アラントラ切ニ御願致シマス（拍手）

○議長(濱田國松君) 委員長報告ハ兩案ヲ併合シテ一案トナシ、修正議決シタモノデアリマス、兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマ

○青木雷三郎君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

大正九年法律第五十六號中改正法律案 (北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)

第二讀會(確定議)

○議長(濱田國松君) 別ニ御發議ガアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り確定致シマシタ(拍手)日程第十三、登錄稅法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長 福井甚三君

第十三 登錄稅法中改正法律案(金光庸夫君外三名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 登錄稅法中改正法律案(金光庸夫君外三名提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十年二月二十六日
委員長 福井 甚三

衆議院議長濱田國松殿

〔別紙〕

登録税法中左ノ通改正ス
第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ規定ハ保險業法ノ規定ニ從ヒ會社カ其ノ保險契約全部ノ移轉契約ニ因リテ不動産又ハ船舶ニ關スル權利ヲ移轉シタル場合ニ於テ其ノ權利ノ取得ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
〔福井甚三君登壇〕

○福井甚三君 只今上程サレマシタル登録税法中改正法律案委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ至ッテ簡單デアリマシテ、即チ保險業者ガ合併ヲ致シマスニ付キマシテ、其保險契約ノ全部ノ移轉契約ニ基クコトデ、改正シナケレバナラヌト云フ案デアアルデアリマス、此案ハ合併ニ最モ必要ナ案デアリマスルカラ、寧ロ政府ヨリ提案セラルベキ筈ノ案デアアルデアリマス、斯様ノ意味ニ於キマシテ、政府委員ノ説明ヲ聽キ、委員諸君ハ熱心ニ審議ヲセラレマシテ、其結果ガ山下委員ヨリ、本案ノ趣旨ヲ明ニスルガ爲ニ字句ノ修正ト、附則ト致シマシテ施行ノ期日ヲ定メテ置ク方ガ宜カラウ、斯ウ云フ譯デ修正動議ヲ提出サ

官報號外 昭和十年三月三日 衆議院議事速記第二十一號

レタノデアリマス、其修正ノ箇所ハ「前項ノ規定ハ保險業法ノ規定ニ從ヒ」ト云フ下ニ「會社カ其ノ」ト云フコトヲ加ヘテ明ニセラレタノデアリマス、施行ノ期日ヲ定ムルニ付キマシテハ、附則ト致シテ「本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト云フコトニシテ、修正動議ヲ出サレマシテ、滿場ニ御諮リヲ致シマシタ所ガ、滿場一致之ヲ可決セラレタ次第デアリマス、以上御報告申上ゲマス、何卒御審議ノ上確定アラントト御願致シマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ
○青木雷三郎君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決セラレンコトヲ望ミマス
○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス
登録税法中改正法律案 第二讀會(確定議)

○議長(濱田國松君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通

リ確定致シマシタ(拍手)日程第十四及第十五ハ、同一委員ニ付託シタル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第十四、刑事判決宣告猶豫ニ關スル法律案、日程第十五、小作調停法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス
原惣兵衛君

第十四 刑事判決宣告猶豫ニ關スル法律案(一松定吉君外三名提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十五 小作調停法中改正法律案(藤田若水君外四名提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 刑事判決宣告猶豫ニ關スル法律案(一松定吉君外三名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十年二月二十八日
委員長 原 惣兵衛
衆議院議長濱田國松殿

報告書

一 小作調停法中改正法律案(藤田若水君外四名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

候此段及報告候也

昭和十年二月二十八日

委員長 原 惣兵衛
衆議院議長濱田國松殿

○原惣兵衛君 簡單デアリマスカラ此席カラ御許シテ願ヒマス

○議長(濱田國松君) 許可致シマス

○原惣兵衛君 只今議題トナッテ居リマスル刑事判決宣告猶豫ニ關スル法律案ノ内容ハ、由來裁判ガアリマシタラ必ズ確定決定スルト云フコトニナッテ居リマシタノヲ、裁判所ハ特ニ一定ノ犯罪ニ對シマシテハ、少クトモ將來ノ改換ノ見込ガアルト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、其本人ノ裁判ヲ一時宣告ヲ猶豫スルノ言渡ラスル、ソレニ依ッテ一定ノ期間ノ經過シマシタ時ニ於テハ、本人ノ改換ノ情ガ十分デアリマスルガ故ニ、丁度免訴ノ判決、少クトモ罪ノ無カッタ者ト同一ノ状態ニ置カウト云フノガ本案ノ趣旨デアリマス、細カキ内容ハ法律案ニアリマスカラ、御一讀ヲ願ヒタイノデアリマス、其意味ニ於テ宣告ヲ猶豫シテ其罪ナカラシメ、罪ヲ犯サマルト同一ノ状態ニ置イテ、本人ノ將來ヲ感化シテ行カウト云フノガ、刑事政策ノ立場カラ實行セラレタモノデアリマスカラ、滿場一致反對ナク可決致シマシタ、左様御承知願ヒマス、今一ツハ小作調停法中改正法律案デアリマス、先般ノ借地借家ノ法律案ト同様ニ、代理人ニ辯護士ヲ入レルト云フノガ本案ノ趣旨デアリマシテ、是モ異議ナクシテ滿場一致可決致シ

第二讀會 刑事判決宣告猶豫ニ關スル法律案外一件

四三一

マシタ、以上御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○青木雷三郎君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

刑事判決宣告猶豫ニ關スル法律案

第二讀會(確定議)

小作調停法中改正法律案

第二讀會(確定議)

○議長(濱田國松君) 別ニ御發議ガアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決確定サレマシタ(拍手)日程第十六乃至第二十三ハ、同一委員ニ付託シタル議案デアリマスカラ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第十六、衛生組合法案、第十七、衛生組合法案、第十八、衛生組合法案、

第十九、傳染病豫防法中改正法律案、第二

十、傳染病豫防法中改正法律案、第二十一、産師法案、第二十二、産師法案、第二十三、産師法案、右八案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス

石坂豐一君

第十六 衛生組合法案(田中祐四郎君 外二名提出)

第十七 衛生組合法案(鷺野米太郎君 外五名提出)

第十八 衛生組合法案(野田文二郎君 外一名提出)

第十九 傳染病豫防法中改正法律案(田中祐四郎君外二名提出)

第二十 傳染病豫防法中改正法律案(鷺野米太郎君外五名提出)

第二十一 産師法案(土屋清三郎君外三名提出)

第二十二 産師法案(野方次郎君外四名提出)

第二十三 産師法案(山道襄一君外二名提出)

報告書

一 衛生組合法案(田中祐四郎君外二名提出)

一 衛生組合法案(鷺野米太郎君外五名提出)

一 衛生組合法案(野田文二郎君外一名提出)

右ハ本院ニ於テ三案ヲ併合シテ一案ト爲シ別紙ノ通(内容同一)修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十年二月二十八日

委員長 石坂 豐一

(別紙)

衆議院議長濱田國松殿

衛生組合法案 第一條 衛生組合ハ公衆衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 衛生組合ハ法人トス

第三條 衛生組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

一 衛生思想ノ普及ニ關スル事業

二 傳染性疾患及寄生蟲病ノ豫防救治ニ關スル事業

三 清潔保持ニ關スル事業

四 其ノ他公衆衛生上必要ナル事業

衛生組合ハ行政官廳又ハ市長ノ指示ヲ承ケ前項ノ事業ニシテ國、道府縣又ハ市ニ屬スル事務ヲ補助スルコトヲ得

第四條 衛生組合ノ區域ハ市内ニ於テ市長之ヲ定ム

第五條 衛生組合ハ其ノ區域内ノ世帯主ヲ以テ其ノ組合員トス

衛生組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ前項ニ掲グル者ノ外組合区域内ニ學校、病院、工場、倉庫、營業所又ハ事務所等ヲ設クル者ヲ組合員ト爲スコトヲ得但シ國、道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 衛生組合ヲ設立セントスルトキハ其ノ区域内ノ組合員タル資格ヲ有スル者七人以上發起人ト爲リ組合規約ヲ作成シ組合員タル資格ヲ有スル者二分ノ一以上ノ同意ヲ得テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第七條 地方長官必要アリト認ムルトキハ市長ニ對シ區域ヲ指定シ衛生組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ衛生組合ノ設立ヲ命ゼラレタル市長ハ組合規約ヲ作成シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第八條 衛生組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ總會ヲ開キ組合ニ關スル事件ヲ議決ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ代會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得

總會ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 衛生組合ニ組合長及副組合長一人又ハ二人ヲ置ク

組合長及副組合長ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス

前項ノ選舉ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

組合長及副組合長ノ外組合規約ノ定ム

ル所ニ依リ衛生組合ニ他ノ役員ヲ置ク
コトヲ得

第十條 組合長ハ組合ヲ代表シ組合一切
ノ事務ヲ擔任ス

副組合長ハ組合長ヲ輔佐シ組合長事故
アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

副組合長二人アルトキハ組合長ノ豫メ
定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第十一條 衛生組合ノ經費ハ組合規約ノ
定ムル所ニ依リ組合員之ヲ負擔ス

第十二條 組合規約ヲ變更セントスルト
キハ市長ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受ク
ベシ

第十三條 地方長官ハ衛生組合ニ對シ監
督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲
スコトヲ得

市長ハ衛生組合ニ對シ事務ノ報告ヲ爲
サシメ、書類帳簿ヲ徴シ、實地ニ就キ

事務ヲ視察シ若ハ出納ヲ検査シ又ハ事
業ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スルコト
ヲ得

第十四條 地方長官ハ總會ノ議決若ハ選
舉又ハ役員ノ行爲ガ法令若ハ組合規約

ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキ
ハ議決若ハ選舉ヲ取消シ、役員ヲ解任

シ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ノ解
散ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 衛生組合ノ解散、分合及區域
ノ變更ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ

定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

傳染病豫防法ニ依リ設立シタル市内ノ衛
生組合ニシテ本法施行ノ際地方長官ノ指

定シタルモノハ本法ニ依リ設立シタルモ
ノト看做ス

前項地方長官ノ指定シタル衛生組合ハ遲
滯ナク組合規約ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ

受クベシ

報告書

一 傳染病豫防法中改正法律案(田中祐四
郎君外二名提出)

一 傳染病豫防法中改正法律案(鷺野米太
郎君外五名提出)

右ハ本院ニ於テ兩案ヲ併合シ別紙ノ通
(内容同一)修正スヘキモノト議決致候此

段及報告候也
昭和十年二月二十八日

委員長 石坂 豐一

衆議院議長濱田國松殿
〔別紙〕

傳染病豫防法中左ノ通改正ス
第二十三條 地方長官ハ傳染病豫防救治

ノ爲町村内ニ衛生組合ヲ設ケシムルコ
トヲ得

地方長官ハ衛生組合法ニ依ル衛生組合
及前項ノ衛生組合ニ對シ清潔方法消毒

方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ必
要ナル事項ヲ指示シテ之ヲ履行セシム

ルコトヲ得
市町村ハ衛生組合法ニ依ル衛生組合及

第一項ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救
治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ

補助スルコトヲ得
第二十四條中「第二十三條第二項」ヲ「第

二十三條第三項」ニ改ム
附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

報告書

一 産師法案(土屋清三郎君外三名提出)

一 産師法案(野方次郎君外四名提出)

一 産師法案(山道襄一君外二名提出)

右ハ本院ニ於テ三案ヲ併合シテ一案ト爲
シ別紙ノ通(内容同一)修正スヘキモノト

議決致候此段及報告候也
昭和十年二月二十八日

委員長 石坂 豐一

衆議院議長濱田國松殿
〔別紙〕

第一條 産師トハ助産ヲ業トスル者ヲ謂
フ

第二條 産師タラムトスル者ハ二十年以
上ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有シ内務大

臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス
一 修業年限四箇年以上ノ高等女學校

ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ
有スル者ニシテ内務大臣ノ指定シタ

ル産師學校ヲ卒業シタル者
二 外國ノ産師學校ヲ卒業シ又ハ外國
ニ於テ産師ノ免許ヲ得タル者ニシテ

三 産師試験ニ合格シタル者
産師試験ハ内務大臣之ヲ行フ

産師試験ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之
ヲ定ム

第三條 聾者、啞者、盲者又ハ精神病者ニ
對シテハ産師ノ免許ヲ與フルヲ得ス

墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪ヲ犯シ
刑ニ處セラレタル者又ハ禁錮以上ノ刑

ニ處セラレタル者ニ對シテハ産師ノ免
許ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第四條 産師ハ妊娠、産婦、褥婦又ハ胎
兒、生兒ニ異常アリト認ムルトキハ直

ニ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ
處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時應急ノ

處置ハ此ノ限ニ在ラス
第五條 産師ハ自ラ診察又ハ検査セスシ

テ死産證書又ハ死胎檢案書ヲ交付スル
コトヲ得ス

第六條 産師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ
問ハス業務上技能、經歷又ハ命令ヲ以

テ定ムル事項ノ廣告ヲ爲スコトヲ得ス
第七條 産師ハ産簿ヲ備ヘ十箇年間之ヲ

保存スヘシ
第八條 産師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道

府縣産師會ヲ設立スヘシ
道府縣産師會ハ日本産師會ヲ設立スル

コトヲ得
産師ハ土地ノ狀況ニ依リ郡市區産師會

ヲ設立スルコトヲ得
産師會ハ法人トス

産師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ産事衛

生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
産師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會
員ヨリ徴收スヘキ收入ニ關シ民事訴訟
ヲ提起スルコトヲ得

前各項ニ規定スルモノノ外産師會ニ關
シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第九條 産師第三條第一項ニ該當スルト
キハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

産師墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪ヲ
犯シ刑ニ處セラレタルトキ又ハ禁錮以
上ノ刑ニ處セラレタルトキハ免許ヲ取
消シ又ハ期間ヲ定メテ業務ヲ停止スル
コトアルヘシ其ノ免許前ニ係ル場合亦
同シ

前二項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第
三條第一項ノ原因止ミタルトキ又ハ改
悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フル
コトヲ得

前二項ノ處分ハ内務大臣之ヲ行フ但シ
第二項ノ處分ヲ行フ場合及改悛ノ情顯
著ナル者ニ對シ前項ノ再免許ヲ與フル
場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ル
コトヲ要ス

第十條 免許ヲ受ケシテ助産ノ業ヲ爲
シタル者又ハ第四條乃至第七條ノ規定
ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ
科料ニ處ス業務停止中ノ産師ニシテ助
産ノ業ヲ爲シタル者亦同シ

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
産婆規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前産婆名簿ニ登録セラレタル者
ハ本法ニ依リ産師ノ免許ヲ受ケタル者ト
看做ス

本法施行前地方長官ヨリ業務ノ地域及期
限ヲ定メテ假ニ産婆ノ業ヲ免許セラレタ
ル者ハ本法施行後雖仍其ノ業務ヲ爲ス
コトヲ得且其ノ期限ハ申請ニ依リ之ヲ更
新スルコトヲ得

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ産婆名簿
ニ登録ヲ受クル資格ヲ有スル者及本法施
行後五箇年以内ニ從前ノ規定ニ依リ産婆
名簿ニ登録ヲ受クル資格ヲ得タル者ハ第
二條ノ規定ニ拘ラス産師ノ免許ヲ受クル
コトヲ得

〔石坂豊一君登壇〕

○石坂豊一君 只今上程サレマシタル衛生
組合法案、傳染病豫防法中改正法律案及産
師法案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申
上ゲマス、本委員會ハ以上ノ法案ニ付キマ
シテ審議ヲ重ヌルコト四回ニ及ビマシタ、
其詳細ハ皆様ノ御手許ニ配付シテアリマス
ル速記録ニ讓ルコト、致シマシテ、今茲ニ
其主ナル事項ニ付テ二三御紹介ヲ申上ゲタ
イト思ヒマス、衛生組合法ハ市ニ施行スル
モノデアリマシテ、現在傳染病豫防法中ニ
規定シテアリマス極メテ微弱ナル衛生組合
ヲ強化シテ、之ニ法人格ヲ與ヘ、以テ公衆
衛生事務ノ徹底ヲ期シタイト云フノガ其主
眼デアリマス、此法案ハ從來屢、本院ニ於テ
於キマシテハ、政府案トシテ本院ニ提出セ

ラレ、其都度本院ヲ通過シテ貴族院ニ廻ッテ
居ルモノデアリマス、提案者及委員諸君ガ
此點ニ關シ政府委員ニ質疑セラレ、國務大
臣ノ出席ヲモ求メテ所見ヲ質シタノデアリ
マスルガ、政府ニ於キマシテハ、衛生組合
ノ強化ヲ圖リ、其活動ヲ促スコトハ敢テ異
論ノナイ所デアアル、サリナガラ市町村ノ固
有事務デアアル所ノ衛生事務ヲ處理スルガ爲
ニ、更ニ市町村ニ遊離シタル所ノ法人格ヲ
設クルコトハ、俄ニ贊意ヲ表シ難イト云フ
ノデアリマス、斯ノ如クニシテ幾度カ質疑
應答ヲ重ネマシタ末ニ質問ヲ終了致シマシ
テ、採決ノ結果此三案共滿場一致ヲ以テ可
決スベキモノト確定致シマシテ、サウシテ
三案ハ其内容同一デアリマスカラ、之ヲ一
案ニ修正可決致シタ次第デアリマス、又傳
染病豫防法中改正法律案モ、此衛生組合法
ニ關聯スル法案ノ改正デアリマシテ、是ハ二
案提出サレテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ打ッ
テ一案トシテ可決シタノデアリマス

次ニ産師法案ノ説明ヲ申上ゲマス、現行
産婆規則ハ我國婦人ノ知識教育幼稚ノ時代
ニ於キマシテ、便法ヲ以テ規定サレテ居ル
所ノ極メテ簡易ナル制度デアリマス、今ヤ
世界ノ一等國タル我が民族ノ出產ヲ助クル
所ノ貴キ此職務ニ對シ、國家ノ公認ハ餘リ
ニモ簡單デアリ、餘リニモ其程度ガ低イノ
デアリマス、故ニ今茲ニ其地位ヲ高メ、醫
師、齒科醫師、藥劑師、獸醫師等其他ノ公認
ノ職務ト同等ニ其標準ヲ高メマシテ、社會
的ノ地位ヲ向上セシメントスルノガ本案ノ

主眼デアリマス、此法律案モ既往三回バカ
リ本院ヲ通過シテ居ルモノデアリマスカラ、
委員會ニ於キマシテハ現在ノ産婆ノ計數ヲ
土臺ト致シマシテ、政府ニ所見ヲ質シタノ
デアリマス、政府ニ於キマシテハ産婆ノ數
ガ五万六千五百九十人中、試験合格シテ
居ル者ガ四万八千五百六十三人デアアル、其
他指定學校ヲ卒業シタ者ガ三千七十七人、
從來開業ノ者ハ三千三百五十七人トナッテ
居ル、去リナガラ本案ノ如ク俄ニ資格ヲ高
メタナラバ、サナキダニ僻地ノ産婆ノ居
ナイ所ガマガダ二千三百箇村モアルノデア
ルカラ、其窮屈ナル資格試験ノ結果、一層不
足ヲ來ス心配ガアルカラ、本案ニハ贊成ガ
出來ナイト云フコトデアリマシタ、サリナ
ガラ委員會ハ前述ノ如キ試験合格、又ハ學
校ヲ卒業シテ居ル者ノ多キ計數ニ鑑ミマシ
テ、政府ノ言フコトハ少シモ心配スルニ足
ラス、寧ロスノ如キ有資格者、又ハ學校卒
業者ガ絕對優勢ナル今日ニ於テハ、寧ロ此
地位ヲ向上スルト云フコトガ適當ノ處置デ
アルト云フ空氣ガ、委員會内ニ充滿シテ居
タヤウニ認メタノデアリマス、斯ノ如クシ
テ十分ノ質疑ト論議ヲ重ネマシタ末、採決
ノ結果、此三案ハ内容同一デアリマスカラ、
之ヲ一案ニ修正致シマシテ可決ヲ致シマシ
タ

以上審査ノ經過及ビ結果ヲ申上ゲル次第
デアリマスカラ、何卒滿堂諸君ノ御協贊
ヲ仰グ次第デアリマス(拍手)
○議長(濱田國松君) 日程第十六乃至第十

八ノ衛生組合法案ト、日程第十九及第二十ノ傳染病豫防法中改正法律案トハ、關聯シタル議案デアリマスカラ、先ヅ此五案ノ審議ヲ爲シ、次ニ日程第二十一乃至第二十三ノ産師法案ノ審議ヲ致シマス、委員長報告ハ衛生組合法案ノ三案ヲ併合シテ一案ト爲シ、又傳染病豫防法中改正法律案ノ二案ヲ併合シテ一案ト爲シ、各修正議決シタモノデアリマス、仍テ五案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ五案ノ第二讀會ヲ開クコトニ決シマシク

○青木雷三郎君 直チニ五案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

- 衛生組合法案 第二讀會(確定議)
- 衛生組合法案 第二讀會(確定議)
- 衛生組合法案 第二讀會(確定議)
- 傳染病豫防法中改正法律案 第二讀會(確定議)
- 傳染病豫防法中改正法律案 第二讀會(確定議)

第二讀會(確定議)

官報號外 昭和十年三月三日 衆議院議事速記録第二十一號

衛生組合法案外四件

産師法案外二件 自動車交通事業法中改正法律案

四三五

○議長(濱田國松君) 別ニ御發議ガアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告通り確定致シマシク(拍手)次ニ日程第二十一乃至第二十三ノ産師法案ノ審議ニ入りマス、委員長報告ハ三案ヲ併合シテ一案ト爲シ、修正議決シタモノデアリマス、三案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシク

○青木雷三郎君 直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告通り可決セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

- 産師法案 第二讀會(確定議)
- 産師法案 第二讀會(確定議)
- 産師法案 第二讀會(確定議)
- 議長(濱田國松君) 別ニ御發議ガアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告通り確定致シマシク(拍手)——日程第四、自動車交通事業法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者吉川吉郎兵衛君

第四 自動車交通事業法中改正法律案 (吉川吉郎兵衛君外七名提出) 第一讀會

自動車交通事業法中改正法律案 自動車交通事業法中左ノ通改正ス 第三十七條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第三十七條ノ二 公共團體ハ公益上ノ必要ニ因リ主務大臣ノ許可ヲ受ケテ第一條又ハ第十七條第二項ノ事業(未ダ運輸ヲ開始セザル自動車運輸事業及未ダ供用ヲ開始セザル自動車道事業ヲ含ム)ノ買収ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業ノ一部ヲ買収セラルルニ因リテ殘存事業ノ全部又ハ一部ニ付事業ヲ繼續スルコト能ハザルトキハ自動車運輸事業者又ハ自動車道事業者ハ公共團體ニ對シ殘存事業ノ全部又ハ一部ノ買収ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル買収價格、買収範圍其ノ他買収ノ條件ハ當事者間ノ協議ニ依ル協議調ハザルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

前項ノ裁定中買収價格ニ付不服アル者ハ裁定ノ通知ヲ受ケタル日より三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十七條ノ三 前條ノ規定ニ依リ買収ヲ爲シタル自動車運輸事業路線ノ全部又ハ一部ニ付テハ公益上ノ必要ニ因ルノ外他事業者ニ自動車運輸事業經營

ノ免許ヲ爲スコトヲ得ズ 附則 本法ハ公布ノ日より之ヲ施行ス

○吉川吉郎兵衛君 簡單デアリマスカラ、自席ヨリ發言ヲ御許シ願ヒマス

○議長(濱田國松君) 簡單ナラバ許可致シマス

○吉川吉郎兵衛君 只今上程ニナリマシク本案ハ、昭和六年既ニ制定セラレマシク自動車交通事業法、其中ニ強制買収ノ一項ヲ加ヘテ戴キタイト云フ趣旨デアリマス、本案同様ノモノガ曩ニ同僚ヨリ提出サレマシテ、滿場ノ賛成ヲ得テ、只今委員付託トナツテ居リマス、是ト殆ド同様ノ案デアリマスガ故ニ、先ニ倣ヒマシテ此案モ皆サンノ多數ノ御賛成ヲ得タイト存ジマス、ドウゾ何分宜シク御願致シマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 別ニ質疑ノ通告ハアリマセヌ

○青木雷三郎君 本案ハ東武君外五名提出、大正九年法律第五十六號中改正法律案外一件ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシク——日程第五、舊獨逸膠州租借地還付ニ關スル條約實施ニ伴フ損失ノ補償ニ關スル法律案ノ第一

讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者立川平君

第五 舊獨逸膠州租借地還付ニ關スル條約實施ニ伴フ損失ノ補償ニ關スル法律案(久山知之君外二名提出)

第一讀會

舊獨逸膠州租借地還付ニ關スル條約實施ニ伴フ損失補償ニ關スル法律案

第一條 舊獨逸膠州租借地ニ永久の土著ノ帝國臣民ヲ移植シ帝國ノ利便ニ資セムカ爲ニ政府ノ獎勵保護ノ下ニ政府ノ施設ニ策應シ永久計畫ヲ以テ舊獨逸膠州租借地ニ既墾地ヲ買収シ若ハ未墾地ヲ開拓シ又ハ膠州灣内ニ於テ養貝事業ヲ經營セル個人又ハ山東懸案解決ニ關スル條約及山東懸案細目協定ノ實施ニ伴ヒ帝國軍隊ノ撤退後治安障害ニ因リテ農業又ハ養貝事業ヲ經營スルコト能ハサルニ至リタル爲被リタル損失ニ對シテハ政府ハ本法ニ依リ之ヲ補償スルコトヲ得

第二條 前條ニ規定スル補償金ノ總額ハ三百七十五萬圓以内トス

第三條 補償金ハ主務大臣補償審査會ノ審査ヲ經テ之ヲ決定シ額面金額ニ依リ國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス
補償審査會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 政府ハ前條ノ規定ニ依ル交付ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スル

コトヲ得

第五條 本法ニ依リ補償金ヲ交付スル場合ニ於テハ政府ハ當事者ニ對シ補償ノ目的タル租借權ノ讓渡其ノ他必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(立川平君登壇)

○立川平君 只今上程サレマシタ法律案提案ノ趣旨ヲ簡單ニ御説明申上ゲタイト存ジマス、本案ハ大正十三年第五十議會ニ請願トシテ採擇サレ、昭和元年第五十二議會ニ建議案トシテ可決サレ、昨第六十五議會ニ於テ法律案トシテ本院ヲ通過シ、貴族院ニ於テ不幸審議未了ニナッタモノト、全然内容同一デアアルノデアリマス、御承知ノ通り大正三年我國ハ對獨戰争ニ於キマシテ、膠州灣ヲ占領致シタノデアリマスガ、我國ノ人口食糧問題解決ノ一助トシテ、又一面ニ於テハ北支那ニ於ケル我が國力ヲ確保スル爲ニ、此膠州占領ヲ機會ト致シマシテ、此處ニ政府ハ移民ヲ獎勵シ、殊ニ土著性ノ多イ農民ノ移住ヲ獎勵シタノデアリマス、是ニ於テ我が多數ノ農業家ハ、進ンデ此地ニ進出致シマシテ、爾來八年舊獨逸租借地内ニ多大ノ勞資ヲ投ジテ、農場開拓或ハ又養貝事業ニ努メタノデアリマス、而シテ此間政府ハ常ニ山東ニ於ケル我が特殊權益竝ニ專管居留民ヲ確保スベキ旨ノ聲明ヲ致シ、移住民ハ一ニ此聲明ニ信賴シテ居ッタノデアリマス、然ルニ大正十年華盛頓ニ於キマシテ、山東

懸案解決ニ關スル條約ガ締結サレ、續イテ北京ニ於テ山東懸案細目協定ガ結バレタノデアリマス、此結果山東ハ支那ニ還付セラレマシテ、會テ正當、合法的ニ取得シタ農場ノ既得權ハ、實際ニ於テ剝奪セラル、結果トナリマシテ、投下シタ多大ノ資本モ、勞力モ空シク水泡ニ歸シテ、移住民ハ悲惨ナル境遇ニ轉落シタノデアリマス、是ハ實ニ國策ノ犧牲トナッタモノト言ハナケレバナラヌノデアツテ、國家ハ斷ジテ之ヲ默過スベキモノデハナイト思フノデアリマス、獨リ是等ノ被害者ニ對シテ同情シナケレバナライノミナラズ、斯ノ如キコトヲ此儘放置シテ顧ミナイト云フコトハ、我が國民將來ノ海外發展ニ對シマシテモ、多大ナル障礙ヲ與フルコト、信ジマス、是等國策ノ犧牲トナリ、甚大ナル損害ヲ受ケマシタ人々ニ對シテ、國家ニ其損失ヲ補償セシメタイト云フノガ本案ノ趣旨デアアルノデアリマス、何卒御審議ノ上御贊成アラシコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 別ニ質疑ノ通告ハアリマセヌ

○青木雷三郎君 本案ハ政府提出、政府貸付金處理ニ關スル法律案委員ニ併セ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第六、日程第七ハ、同種ノ議案デアリマスカ

ラ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第六、日程第七ハ、同種ノ議案デアリマスカ

ラ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第六、日程第七ハ、同種ノ議案デアリマスカ

ラ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第六、日程第七ハ、同種ノ議案デアリマスカ

ラ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

六、日程第七ハ、同種ノ議案デアリマスカ

ラ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第六、五大都市ニ特別市制實施ニ關スル法律案、日程第七、五大都市ニ特別市制實施ニ關スル法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、順次提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——日程第六、提出者中井一夫君

第六 五大都市ニ特別市制實施ニ關スル法律案(中井一夫君外四名提出)

第七 五大都市ニ特別市制實施ニ關スル法律案(小山松壽君外六名提出)

第一讀會

五大都市ニ特別市制實施ニ關スル法律案

第一條 本法ニ於テ市ト稱スルハ京都市、大阪市、橫濱市、神戸市及名古屋市ヲ謂フ

第二條 市ハ從來ノ區域ニ依リ之ヲ府縣ノ區域外トス

第三條 市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務竝從來法令又ハ慣例ニ依リ府縣又ハ市ニ屬スル事務及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第四條 市ハ内務大臣之ヲ監督ス

第五條 市ハ從來ノ區域ニ依リ之ヲ府縣ノ區域外トス

第六條 市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務竝從來法令又ハ慣例ニ依リ府縣又ハ市ニ屬スル事務及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第七條 市ハ内務大臣之ヲ監督ス

第五條 市制其ノ他ノ法令又ハ慣例ニ依

リ從來地方長官及府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ市ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣又ハ市長之ヲ行フ

第六條 市制其ノ他ノ法令ニ依リ從來府縣參事會ニ訴願シ得ヘキ事項ハ市ニ於テハ直ニ之ヲ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七條 市ハ市制其ノ他ノ法令ニ依ルモノノ外從來ノ府縣稅及賦金ノ例ニ依リ市稅及賦金ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八條 市ハ府縣ト其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ規約ヲ定メ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣市組合ヲ設クルコトヲ得

府縣市組合ハ法人トス
府縣市組合ノ事務ハ内務大臣ノ指定シタル府縣知事又ハ市長之ヲ管理ス

府縣市組合ニ關シテハ府縣制第二百二十六條ノ三第一項及第二百二十六條ノ四乃至第二百二十六條ノ七ノ規定ヲ準用ス

第九條 市制第二百七十條第一項ノ懲戒審査會ノ組織ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 本法ニ規定スルモノノ外總テ市制ノ定ムル所ニ依ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ爲府縣ニ屬スル財產、營造物及事業ノ處分並權利義務ノ歸屬ニ關シ必要ナル事項ニ付テハ關係アル府縣會及市

會ノ意見ヲ徵シ主務大臣之ヲ定ム

五大都市ニ特別市制實施ニ關スル法律案

第一條 本法ニ於テ市ト稱スルハ京都市、大阪市、橫濱市、神戸市及名古屋市ヲ謂フ

第二條 市ハ從來ノ區域ニ依リ之ヲ府縣ノ區域外トス

第三條 市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ府縣又ハ市ニ屬スル事務及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第四條 市ハ内務大臣之ヲ監督ス

第五條 市制其ノ他ノ法令又ハ慣例ニ依リ從來地方長官及府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ市ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣又ハ市長之ヲ行フ

第六條 市制其ノ他ノ法令ニ依リ從來府縣參事會ニ訴願シ得ヘキ事項ハ市ニ於テハ直ニ之ヲ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七條 市ハ市制其ノ他ノ法令ニ依ルモノノ外從來ノ府縣稅及賦金ノ例ニ依リ市稅及賦金ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八條 市ハ府縣ト其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ規約ヲ定メ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣市組合ヲ設クルコトヲ得

府縣市組合ハ法人トス

府縣市組合ノ事務ハ内務大臣ノ指定シタル府縣知事又ハ市長之ヲ管理ス

府縣市組合ニ關シテハ府縣制第二百二十六條ノ三第一項及第二百二十六條ノ四乃至第二百二十六條ノ七ノ規定ヲ準用ス

第九條 市制第二百七十條第一項ノ懲戒審査會ノ組織ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

府縣市組合ノ事務ハ内務大臣ノ指定シタル府縣知事又ハ市長之ヲ管理ス

府縣市組合ニ關シテハ府縣制第二百二十六條ノ三第一項及第二百二十六條ノ四乃至第二百二十六條ノ七ノ規定ヲ準用ス

第九條 市制第二百七十條第一項ノ懲戒審査會ノ組織ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 本法ニ規定スルモノノ外總テ市制ノ定ムル所ニ依ル

府縣市組合ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

府縣市組合ノ爲府縣ニ屬スル財產、營造物及事業ノ處分並權利義務ノ歸屬ニ關シ必要ナル事項ニ付テハ關係アル府縣會及市會ノ意見ヲ徵シ主務大臣之ヲ定ム

○中井一夫君 只今上程セラレマシタ京都、大阪、名古屋、橫濱、神戸ノ五大都市ニ、特別市制ヲ實施スルノ法律案ニ付テ、其提案ノ理由ヲ簡單ニ御説明申上ダス、最近ニ於ケル大都市ノ生々發達ハ、洵ニ重大ナル文化現象デアリマシテ、政治、經濟、社會上、種々特異ナル重要問題ヲ提供致シテ居リマス、而モ大都市タルヤ一國文化ノ中軸デアリマシテ、又實ニ政治、經濟、社會、學術ノ淵藪デゴザイマス、其隆替消長ハ、直チニ以テ國家ノ盛衰興亡ニ影響スルハ勿論、國民生活ノ形態内容ニ至大ノ感化ヲ及ボスモノデアリマス、是レ大都市行政ニ對シマシテハ、特ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒマ

シテ、特別ナル行政ノ下ニ在ル機能ノ發揮助長ヲ爲サネバナラストセラル、所以デアリマス、蓋シ人口ノ都市集中ハ世界的趨勢デアリマスケレドモ、就中大都市ニ於キマシテ其著シキヲ見ル我國ニアリマシテハ、東京大阪等、所謂六大都市ノ伸展、眞ニ驚異ニ値スルモノガアリマス、今ヤ其包容スル人口ハ六十萬乃至六百萬ニ達スルノミナラズ、大都市構成ノ一部ト見ルベキ隣接町村ヲ加ヘマスルナラバ、其人口ハ洵ニ七百萬人ニ近キモノガアラントシテ居リマス、尙ホ是等大都市ノ有スル經濟、金融、産業交通、貿易ノ實力モ、亦驚クベキモノガアルノデアリマス、翻テ其自治生活ノ機能ヲ見マスト、其實力ハ優ニ府縣ヲ凌駕スルモノガアリマスノミナラズ、各般ノ公共施設事業、頗ル廣汎、多岐ニ亙テ居ルノデアリマシテ、時代ノ進運ニ適應スベキ諸施設ノ企畫、亦一日モ忽セニスルコトガ出來ヌノデアリマス、而モ其忽セニスベカラザルノ状態ハ、實ニ刻下ノ急務デアルト言ハネバナラヌ程、酷イ状態ニ相成テ居リマスルコトハ、到底他ノ他方ノ中小自治團體ノ比デハナイノデアリマス、然ルニ今尙ホ大都市ヲ規律致シ、其機能ヲ遂行セシムベキ、適正ナル特殊制度ガ設ケラレナイノデアリマシテ、唯僅ニ一部特例ヲ認メラル、ノ外ハ、全ク劃一的市制ノ下ニ、中小都市ト併列セラレマシテ、消極的ニハ國家ノ二重監督ヲ蒙リ、積極的ニハ大都市ノ機能ヲ發揮スベキ、獨立ノ機能ヲ與ヘラレナイノ

シテ、特別ナル行政ノ下ニ在ル機能ノ發揮助長ヲ爲サネバナラストセラル、所以デアリマス、蓋シ人口ノ都市集中ハ世界的趨勢デアリマスケレドモ、就中大都市ニ於キマシテ其著シキヲ見ル我國ニアリマシテハ、東京大阪等、所謂六大都市ノ伸展、眞ニ驚異ニ値スルモノガアリマス、今ヤ其包容スル人口ハ六十萬乃至六百萬ニ達スルノミナラズ、大都市構成ノ一部ト見ルベキ隣接町村ヲ加ヘマスルナラバ、其人口ハ洵ニ七百萬人ニ近キモノガアラントシテ居リマス、尙ホ是等大都市ノ有スル經濟、金融、産業交通、貿易ノ實力モ、亦驚クベキモノガアルノデアリマス、翻テ其自治生活ノ機能ヲ見マスト、其實力ハ優ニ府縣ヲ凌駕スルモノガアリマスノミナラズ、各般ノ公共施設事業、頗ル廣汎、多岐ニ亙テ居ルノデアリマシテ、時代ノ進運ニ適應スベキ諸施設ノ企畫、亦一日モ忽セニスルコトガ出來ヌノデアリマス、而モ其忽セニスベカラザルノ状態ハ、實ニ刻下ノ急務デアルト言ハネバナラヌ程、酷イ状態ニ相成テ居リマスルコトハ、到底他ノ他方ノ中小自治團體ノ比デハナイノデアリマス、然ルニ今尙ホ大都市ヲ規律致シ、其機能ヲ遂行セシムベキ、適正ナル特殊制度ガ設ケラレナイノデアリマシテ、唯僅ニ一部特例ヲ認メラル、ノ外ハ、全ク劃一的市制ノ下ニ、中小都市ト併列セラレマシテ、消極的ニハ國家ノ二重監督ヲ蒙リ、積極的ニハ大都市ノ機能ヲ發揮スベキ、獨立ノ機能ヲ與ヘラレナイノ

デアリマス、彼此レ相俟テ甚シク其自治の活動ヲ阻害致シマシテ、一大集團タル自治生活ノ本質、及作用ニ思フ致サ、ルコトハ、洵ニ遺憾トスル所デアリマス、是レ延テハ大都市々々民生活ノ福祉安康ヲ保持スル能ハズ、又以テ國家行政經濟等ノ上ニモ、重大ナル悪弊ヲ殘シツ、アルモノト謂ハナケレバナラヌノデアリマス、大都市制度確立ノ要望ハ、既ニ之ヲ久シウ致シテ居リマス、其實施ニ付キマシテモ、夙ニ輿論的ノ支持ガアリマス、唯其實施方法ニ付テノミ多少ノ攻究ヲ殘スバカリト相成ツテ居ルノデアリマス、今ヤ正ニ大都市制度實施ノ機ガ至ツテ居ルノデアリマシテ、是レ以上遷延ヲ許サバルモノガゴザイマス、茲ニ大都市ノ有スル特殊性ニ考察致シマシテ、尙ホ現行制度下ニ於ケル不備不便ヲ除去致シ、以テ我國ニ於ケル所ノ大都市行政制度ノ確立ヲ期セントスル所以デアリマス、是レ本案ヲ提出致シタ理由ナノデアリマスガ、尙ホ本案ニ付キマシテハ、固ヨリ我國ノ大都市ノ首位ニアリマスル東京市ヲ包含致スノガ、當然ノ事ナノデアリマスケレドモ、東京市ニ付キマシテハ、既ニ其帝都タルノ特別ノ事情ニ依リマシテ、所謂都制ヲ布クノ議ガアリ、又是ガ布カレルコトガ、當然、相當ノコトデアルト吾々ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレガ爲ニ特ニ此案ニ於キマシテハ、所謂六大都市ヨリ東京市ヲ除外致シマ

シテ、大阪以下四大都市、即チ五大都市ニ本案ヲ布カルベキ旨ヲ明ニ致シタ次第ナノデアリマシテ、決シテ東京市ノミヲ此制度以外ニ除外致シテシマフノ趣旨デハナイノデアリマス、冀クハ諸君ニ於カレマシテモ、私共ノ申シマスル所ヲ能ク御諒察下サレマシテ、御賛同ヲ賜ハラシコトヲ切ニ御願フ致ス次第デアリマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 日程第七、提出者本田彌市郎君

(本田彌市郎君登壇)

○本田彌市郎君 諸君、私ハ本法案ニ付キマシテ、詳細ノ辯明ハ只今中井君ニ依ツテ盡サレテ居リマス、本案ハ最初中井君ト共ニ御相談ヲシテ出スコトニナツテ居リマシタガ、手續上相違ヲ來シマシテ、二ツニ分レテ居リマスガ、趣旨モ總テ同ジモノデアリマス、私ガ敢テ茲ニ贅辯ヲ費ス必要ハ認メマセズ、御承知ノ通り此特別市制ハ殆ド二十年來ニ互リマスル懸案デ、而モ本院ハ數回通過ヲシテ居ルノデゴザイマス、ソレガ或ハ貴族院ニ於テ審議未了トナリ、其他ニ依ツテ今日未ダ目的ヲ達成スルコトガ出來ナイト云フヤウナ次第デゴザイマス、ドウカ諸君ニ於カレマシテハ、滿場一致ヲ以テ御賛成アラシコトヲ偏ニ御願致シマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 質疑ノ通告ガアリマセヌ

○青木雷三郎君 日程第六、第七ノ兩案ハ一括シテ政府提出、府縣制中改正法律案外三件委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第八及第九ハ同種ノ議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第八、百貨店法案、日程第九、百貨店法案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、順次提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——日程第八、提出者眞鍋儀十君

第八 百貨店法案(眞鍋儀十君外三名提出)

第九 百貨店法案(三上英雄君外一名提出)

百貨店法案
第一讀會

百貨店法

第一條 本法ニ於テ百貨店ト稱スルハ衣食住ニ關スル多種類ノ商品ノ小賣業ヲ營ム者ヲ謂フ

衣食住ニ關セサル物品ヲ小賣スル場合ト雖百貨店ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スト

キハ之ヲ百貨店ノ營業ト看做ス

第二條 百貨店ノ業務ヲ營ムトスル者ハ事業方法其ノ他命令ノ定ムル事項ヲ具シ主務大臣ニ申請シ免許ヲ受クヘシ

主務大臣前項ノ免許ヲ爲スニ當リテハ特定ノ審議機關ノ審議ノ結果ヲ參酌スルコトヲ得

特定ノ審議機關ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區營業者ノ代表者、同業組合ノ代表者、所管公吏ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 百貨店ハ本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更シ又ハ店舗若ハ賣場ヲ新設若ハ擴張セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第四條 百貨店ハ支店、出張所若ハ代理店ヲ設置シ又ハ出張販賣ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 百貨店見切品、棚渡、殘品其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス相場外ノ價格ヲ以テ廉賣ヲ爲サムトスルトキハ商品ノ種類、品質、數量、仕入時價及原價、賣價並廉賣ノ事由ヲ具シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 主務大臣ハ百貨店ノ營業方法カ公益ニ反シ又ハ一般小賣業者若ハ消費者ノ公正ナル利益ヲ害スルモノト認ムルトキハ之ヲ制止スル爲ニ必要ナル事項

ト雖百貨店ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スト

ヲ命シ又ハ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第七條 主務大臣ハ百貨店ノ所爲ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタリト認ムルトキハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ其ノ認可若ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第八條 百貨店ハ重要物産同業組合其ノ他ノ同業組合ニ加入スヘシ

第九條 百貨店ハ左ノ各號ノ時間外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

一 四月一日ヨリ九月三十日迄ハ午前八時開店午後六時閉店

二 十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ハ午前九時開店午後五時閉店

第十條 百貨店ハ毎月一齊ニ三日以上ノ休日ヲ設クヘシ

第十一條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ百貨店ニ對シ其ノ營業若ハ財産ノ狀況報告ヲ爲サシメ又ハ營業若ハ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十二條 主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ百貨店ノ業務ヲ營ミタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 百貨店ニ非スシテ百貨店ノ支店又ハ出張所、代理店若ハ出張販賣ナルカ如ク裝ヒテ營業ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ

千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條乃至第五條又ハ第八條乃至第十條ノ規定ニ違反シタル者

二 第六條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

三 第七條ノ規定ニ依ル業務停止ノ處分ニ違反シタル者

四 正當ノ理由ナクシテ第十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者又ハ同條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者

第十五條 百貨店ノ業務ヲ營ム者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ百貨店ノ業務ヲ營ム者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ未成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム重要物産同業組合法第四條但書ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ期日ニ於テ現ニ營業ヲ爲ス百貨店又ハ其ノ店舗若ハ賣場ハ本法ニ依リ免許又ハ認可ヲ受ケタル者ト看做ス

本法施行ノ期日ニ於テ現ニ營業ヲ爲ス百貨店ノ既存ノ支店、出張所又ハ代理店ハ第四條ノ規定ニ拘ラス其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

主務大臣ハ前二項ノ場合ニ於テ其ノ營業繼續ニ付必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

本法施行ノ期日以前ニ於テ百貨店ノ本店其ノ他ノ營業所ノ設置若ハ位置變更ニ著手シ又ハ店舗若ハ賣場ノ新設若ハ擴張ニ著手シタル者ハ本法ニ依リ免許又ハ認可ヲ得ルコトヲ得

申請ヲ爲スコトヲ要ス若シ免許又ハ認可ヲ得ルコトヲ得サル場合ニ於テハ其レニ因リテ生シタル損失ニ付政府ニ對シ補償ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル補償額決定ノ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

百貨店法案

百貨店法

第一條 本法ニ於テ百貨店ト稱スルハ衣食住ニ關スル多種類ノ商品ノ小賣業ヲ營ム者ヲ謂フ

第二條 百貨店ノ業務ヲ營マムトスル者ハ事業方法其ノ他命令ノ定ムル事項ヲ具シ主務大臣ニ申請シ免許ヲ受クヘシ

主務大臣前項ノ免許ヲ爲スニ當リテハ特定ノ審議機關ノ審議ノ結果ヲ參酌スルコトヲ得

特定ノ審議機關ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區營業者ノ代表者、同業組合ノ代表者、所管官吏ヲ以テ之ヲ組織ス

衣食住ニ關セサル物品ヲ小賣スル場合ト雖百貨店ノ營業所ニ於テ之ヲ爲ストキハ之ヲ百貨店ノ營業ト看做ス

第三條 百貨店ハ本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更シ又ハ店舗若ハ賣場ヲ新設若ハ擴張セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第四條 百貨店ハ支店、出張所若ハ代理店ヲ設置シ又ハ出張販賣ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 百貨店見切品、棚渡、殘品其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ相場外ノ價格ヲ以テ廉賣ヲ爲サムトスルトキハ商品ノ種類、品質、數量、仕入時價及原價、賣價並廉賣ノ事由ヲ具シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 主務大臣ハ百貨店ノ營業方法カ

公益ニ反シ又ハ一般小賣業者若ハ消費者ノ公正ナル利益ヲ害スルモノト認ムルトキハ之ヲ制止スル爲必要ナル事項ヲ命シ又ハ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第七條 主務大臣ハ百貨店ノ所爲ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタリト認ムルトキハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ其ノ認可若ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第八條 百貨店ハ重要物産同業組合其ノ他ノ同業組合ニ加入スヘシ

第九條 百貨店ハ左ノ各號ノ時間外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス
一 四月一日ヨリ九月三十日迄ハ午前八時開店午後六時閉店

二 十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ハ午前九時開店午後五時閉店

第十條 百貨店ハ毎月一齊ニ三日以上ノ休日ヲ設クヘシ

第十一條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ百貨店ニ對シ其ノ營業若ハ財産ノ狀況報告ヲ爲サシメ又ハ營業若ハ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十二條 主務大臣ノ免許ヲ受ケシテ百貨店ノ業務ヲ營ミタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 百貨店ニ非スシテ百貨店ノ支

店又ハ出張所、代理店若ハ出張販賣ナルカ如ク裝ヒテ營業ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第三條乃至第五條又ハ第八條乃至第十條ノ規定ニ違反シタル者

二 第六條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

三 第七條ノ規定ニ依ル業務停止ノ處分ニ違反シタル者

四 正當ノ理由ナクシテ第十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者又ハ同條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者

第十五條 百貨店ノ業務ヲ營ム者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ百貨店ノ業務ヲ營ム者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能

カヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第十七條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

重要物産同業組合法第四條但書ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ期日ニ於テ現ニ營業ヲ爲ス百貨店又ハ其ノ店舗若ハ賣場ハ本法ニ依リ免許又ハ認可ヲ受ケタル者ト看做ス

本法施行ノ期日ニ於テ現ニ營業ヲ爲ス百貨店ノ既存ノ支店、出張所又ハ代理店ハ第四條ノ規定ニ拘ラス其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

主務大臣ハ前二項ノ場合ニ於テ其ノ營業繼續ニ付必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

本法施行ノ期日以前ニ於テ百貨店ノ本店其ノ他ノ營業所ノ設置若ハ位置變更ニ著手シ又ハ店舗若ハ賣場ノ新設若ハ擴張ニ著手シタル者ハ本法ニ依リ免許又ハ認可ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス若シ免許又ハ認可ヲ得ルコトヲ得サル場合ニ於テハ其レニ因リテ生シタル損失ニ付政府ニ對シ補償ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル補償額決定ノ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

(眞鍋儀十君登壇)

○眞鍋儀十君 百貨店法提案ノ理由ヲ簡單ニ説明致シマス、資本主義機構ノ社會組織下ニ於キマシテハ、企業トシテハ先ヅ大資本ヲ擁スルト云フコトガ、競争場裡ニ勝利ヲ占メル決定的ノ條件デアリマス、大資本ガ中小資本ヲ併呑シ、若クハ征服シ、茲ニ企業ノ集中傾向ガ現レテ來ルノデアリマ

ガ、是ハ必然的ニ中小資本ノ、換言スルナラバ、社會ノ中堅階級ヲ成シテ居ル中小商工業者ニ、非常ナ重壓ヲ加ヘルト云フヤウ

ナ結果ヲ招來シテ來ルモノデアリマス、是ガ爲メ倒産、廢業相踵グト云フ實情ヲ見マ

ス時ニ、非常ニ法律トシテ完備シテ居ル日本ガ、何ガ故ニ百貨店法ノミヲ制定シナイ

カト云フコトニ對スル疑問ガ、當然湧イテ來ナケレバナラスト思ヒマス、昭和七年政

府ハ百貨店法ヲ提出スルノ準備ヲ整ヘマシテカラ、百貨店協會ノ自製聲明ニ依リマシ

テ提出ヲ留保サレタモノデアリマスガ、其後百貨店協會ハ、自製聲明ヲ蹂躪致シマシ

テ、紳士協約ハ全ク今日空文ニナツテ居リマ

スルノデ、今回本案ヲ提出致シタモノデア

リマス、百貨店ガ小賣商ニ如何ナル影響ヲ

及ボシマスカハ申ス迄モゴザイマセヌガ、

名古屋ノ松坂屋ガ一軒新築サレルト云フコ

トハ、九尺二間ノ商店ガ一千一軒出來タ

ノト同一デアリマス、大阪ノ阪急百貨店ガ

一軒出來タト云フコトハ、九尺二間ノ商店

ガ二千二百軒出來ト同一デアリマス、東京ノ三越一軒ハ九尺二間ノ商店ニ比較致シマスナラバ、正ニ二千五百軒ノ増加ニ該當致シマス、斯様ナモノガ無制限ニ新設セラレマスルコトハ、此資本ノ重壓ヲ受ケル立場ニ考ヘテ見マシタ時ニ、ドウシテモ本案ハ制定サレナケレバナラヌ必要ノ痛感ヲ致ス者デアリマス、東京デハ小賣專業ノ賣上ハ凡ソ五億圓デゴザイマスガ、此外ニ卸小賣ガ一億五千万圓位ノ年賣上ヲ上ゲテ居リマス、然ルニ東京ノ僅ニ三四十軒ニ足ラザル百貨店ガ、此中二億五千万圓ノ賣上ヲ致シテ居ルコトカラ考ヘマスレバ、數字ノ上カラ見マシテモ、非常ナ重壓ヲ蒙テ居ルト申サナケレバナリマセヌ、是等ヲ整調是正シ、融和解決致シマスルノニハ、色々ノ方法ガアラウト思ヒマス、或ハ國民同盟ヨリ嘗テ提出セラレタコトノアリマスル高率課税ニ依ルコトモ其一ツデアリマセウ、諸外國ニ於テモ、資本ノ重壓ハ同様ニ中小工業者ガ受ケテ居ルノデアリマスルガ、佛蘭西ハ矢張此課税主義ニ依ッテ居リマス、千八百八十年カラ千九百五年迄ニ、此課税ハ三倍ニ累進サレタ程課税ヲ致シテ居リマス、此外ニモ尙ホ利益ニ對スル収益税、賣上ニ對スル累進税ト云フヤウナモノヲ課ケマシテ、百万法以上ノ賣上ニ對シマシテハ、百万法カラ二百万法ガ千分の一、二百万法カラ一

千万法ガ千分之二、二千万法カラ一億法ガ千分ノ三、一億法カラ二億法ガ千分ノ四、二億法以上ハ千分ノ五ノ累進課税ヲ致シテ居リマス、ソレデモ現在佛蘭西ニ於キマシテハ、全國ノ二十分ノ一ハ矢張此百貨店ニ於テ賣上ヲ致シテ居ルト云フヤウナ實情デアリマシテ、中々累進課税ヲヤリマスト消費者ニ轉嫁スル傾ガアリマスノデ、其處ハ考ヘナケレバナラナイ、立法上ノ考慮ヲ要スルノデアリマス、獨逸ハ建物ニ對シテ制限ヲ致シテ居リマス、例ヘバ二階以上ハ、上層建築ヲ火災其他ノ爲ニ危険ヲ感ズルコトニ使用シテナラナイトカ、或ハ食堂ヲ併置シテナラナイトカ、或ハ建物ノ大キサニ比較シテ累進課税ヲ課ケルトカ、現在「ヒットラー」ニナリマシテカラハ、百万「ライヒス・マルク」以上ノ賣上ニ對シマシテハ、千分ノ一・三・五ノ課税ヲ致シテ居リマス、是モ大資本ヲ整調スル好結果ヲ得テ居リマセヌ、伊太利ノ如キハ反對ニ、今度ハ小賣商ノ方ノ制限ヲ試ミテ居リマシテ、五百「リラ」以上ノ保證金ヲ取リマシテ、小賣商ノ増加ヲ防イデ居リマスガ、所謂免許制度ヲ採ッテ居リマスルケレドモ、私共ノ議論ノ建前カラ申セバ、小サイ者カラ五百「リラ」ノ保證金ヲ取ルコトヨリモ、大資本ヲ擁シテ居ル者ノ方ニ税金ヲ加ヘルコトガ、社會政策上、立法トシテハ當然ノ立法デナケレ

バナラヌト考ヘマス、過日カラ問題ニナツテ居リマシタ産業組合ノ如キハ、色々ノ融資其他ノ好條件ニ恵マレテ居リマスガ、都會ノ中小工業者ハ斯様ナ特典ヲ受ケテ居ラスノデアリマス、殊ニ商品券ノ如キハ、一枚一万圓カラ十萬圓ニ及ブモノモアリマシテ、左様ナモノヲ長キハ一年カラ五年、無利子デ百貨店ガ利用シテ居リマス總額ハ、年七八百萬圓ヨリ二千萬圓ニ達スル年モゴザイマシテ、商品券ノ如キハ五十日ヲ一回轉ト致シマシテ、年ニハ五六回ヅ、回轉スル程好條件ニ恵マレテ居リマスノニ、普通ノ中小工業者ハ、左様ナ特典ヲ持ッテ居リマセヌガ爲ニ、非常ニ困憊ヲ致シテ居ル實情デアリマス、是ニ於キマシテ已ムヲ得ズ私ハ嘗テ政府ガ提出セントシタル法案ニ準據致シマシテ、本法案ヲ提出致シマシテ、最モ穩健ナ、悪ク云ヘバ微温的ナ、常識的ナ立法化ヲ試ミヨウト致シテ居ル者デアリマス、本案ノ内容ハ、僅ニ分支店ノ設置、濫賣其他ニ付テ規定シテ居ルノミデアリマシテ、同一小賣戰線ニ、百貨店モ小賣業者モ共同致シマシテ、配給機能ノ圓滑ヲ期セントスル精神ニ外ナラヌノデゴザイマスカラ、何卒諸君ノ御賛同ヲ得マシテ、本案ガ通過スルヤウ御盡力ヲ御願致シマス（拍手）

○議長（濱田國松君） 日程第九、提出者三上英雄君

（三上英雄君登壇）

○三上英雄君 此法案ハ只今眞鍋君ガ説明ヲ致シマシタル法案ト全然其内容ヲ同ジク致シテ居ルノデアリマス、隨テ私ハ其提案ノ趣旨説明ハ眞鍋君ノソレヲ援用シ、茲ニ此法案ノ理由書ニ記述シテアリマスル所ヲ援用致シタイト思フノデアリマスガ、唯一言申上ゲタイコトハ、近代資本主義經濟機構ノ一ツノ重大ナル弊害ト致シマシテ、此百貨店ガ龐大ナル資本ヲ有ッテ、其絶大ナル威力ヲ發揮シテ、多數ノ小賣商人ニ對シテ重壓ヲ加ヘテ居ルノデアリマス、之ヲ例ヘバ東京市ニ於テ見マスルノニ、一箇年ノ間ニ百貨店ガ七億九千万圓ノ賣上高ガアルノデアリマスガ、其金額ハ小賣商人ノ全賣上高ノ三分ノ一ニ達シテ居ルト云フガ如キ、實ニ驚クベキ數額ヲ示シテ居ルノデアリマス、斯様ナル狀態デアリマスルガ故ニ、小賣商人ハ疲弊其極ニ達シ、轉落ノ途ヲ辿リツ、アル狀態デアッテ、其慘狀ハ洵ニ同情ニ堪ヘザルモノガアルノデアリマス（拍手）此故ニ於テ、吾々ハ此救済ヲスルト云フコトハ、洵ニ同胞愛ノ現レトシテ當然ノ實デアルト言ハナクテハナラヌノデアリマス（拍手）吾々ハ農村ノ疲弊ヲ救済シ、中小工業者ノ窮乏ヲ救ヒ、又消費者ノ立場ヲ考慮シ色々ノ方面ニ於テ圓滿ナル政治ヲ爲スヤウニシナクテハナラヌ、此法案ヲ出シタル

ノ故トテ、決シテ吾々ハ徒ニ百貨店ヲ敵視スル者デハナイノデアリマス、要ハ共存共榮ヲ致シマシテ、國家ノ施設經營ガ本當ニ政治ノ要諦デアアル、公平ニ行ハレルト云フコトヲ期スルニ存スルノデアリマス、畏クモ

明治大帝ガ明治元年五箇條ノ御誓文ト共ニ賜リマシタ所ノ御宸翰ノ一節ニ

「天下億兆一人モ其處ヲ得サル時ハ皆朕カ罪ナレハ」ト仰セ給フタノデアリマス、又非常ニ民ニ對シテ仁愛ニ滿チテ居ラセラ

レタ所ノ彼ノ仁徳天皇ガ、皇居ノ高キ所ニ上リ給ウテ民ノ囂ヨリ煙ノ立ツノヲ御覽ゼラレテ「タカキヤニノボリテミレバ煙タツ

民ノ囂ハ賑ヒニケリ」ト云フ御製ヲ賜ッタノデアリマス、此皇室ノ御聖恩ニ、吾々ハ深ク感激ヲシナケレバナラスノデアリマス、

我が政府當局ハ常ニ調査攻究トノミ稱シ、日一日ト遷延スルコトナク、奮然一番シテ

是ガ對策ヲ確立シナケレバナラスト信ズルノデアリマス、斯様ナ次第デアリマスカラ、

私共ハ此百貨店ノ自制ノミヲ俟ツテ、而シテ如上ノ目的ヲ達スルト云フコトハ、極メテ至難デアアル、統制アル此百貨店法ノ制定ヲ俟ツテ、サウシテ其目的ヲ貫徹シナケレバナ

ニ代ヘル次第デアリマス(拍手)
○議長(濱田國松君) 別ニ質疑ノ通告ハアリマセヌ

○青木雷三郎君 日程第八、第九ノ兩案ヲ一括シテ、東武君外三名提出度量衡法中改正法律案外二件委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十、傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乘車船優遇ニ關スル法律案ノ第二讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——吉川吉郎兵衛君

第十 傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乘車船優遇ニ關スル法律案(吉川吉郎兵衛君外四名提出)

第一讀會
傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乘車船優遇ニ關スル法律案

第一條 本法ニ於テ鐵道トハ國有鐵道(連絡航路ヲ含ム)、一般交通ノ用ニ供スル地方鐵道及軌道並南滿洲鐵道株式會社所屬ノ鐵道ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ船舶トハ一般交通ノ用ニ供スル爲航路ヲ定メ定期ニ航行シテ旅客ヲ運送スル船舶ニシテ命令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

第三條 傷痍軍人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ增加恩給及傷病年金受給者ニ在リテハ無賃、一時賜金受給者ニ在リテハ旅客運賃ノ五割引ニテ鐵道ニ乘車スルコトヲ得

第四條 傷痍軍人ニシテ傷痍、疾病又ハ老齡等ノ爲他人ノ扶助ヲ要スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ附添人一名ヲ限リ本人相當ノ無賃又ハ旅客運賃割引ニテ之ヲ同伴スルコトヲ得

第五條 戰公傷病死者ノ遺族ハ命令ノ定ムル所ニ依リ靖國神社大祭若ハ招魂祭ニ參拜ノ爲又ハ遺骨ノ出迎受領ノ爲旅行スルトキハ其ノ往復ニ限り無賃又ハ旅客運賃ノ五割引ニテ鐵道ニ乘車スルコトヲ得

第六條 第三條、第四條及第五條ニ掲クル者船舶ニ依リ旅行スル場合ニ於テ本法ノ規定ニ依リ無賃ニテ乘車シ得ル旅行ニ相當スルトキハ旅客運賃ノ五割引、五割引運賃ニテ乘車シ得ル旅行ニ相當スルトキハ旅客運賃ノ二割引ニテ乘船スルコトヲ得

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○吉川吉郎兵衛君 極メテ簡單デアリマスカラ、自席ヨリ發言ヲ御許シテ願ヒマス

○議長(濱田國松君) 簡單ナラバ御許シンマス

○吉川吉郎兵衛君 只今議題ニナツテ居リマスル傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶乘車船優遇ニ關スル法律案デアリマス、此案ハ詳細ナル説明ヲ省略シタイノデアリマスルガ、既ニ曩ニ二案程同様ノモ

ノガ提出サレマシテ、滿場ノ贊成ヲ得テ今委員會ニ付託サレテ居リマスルノト全く同案デアリマスルガ故ニ、必要ニ應ジマシテ提出者ノ中ヨリ委員會ニ於テ詳細ナル説明ヲ致シタイト存ジマスルガ、何卒曩ト同様多數ノ御贊成アラント切ニ御願ヲ致シマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 質疑ノ通告ハアリマセヌ

○青木雷三郎君 本案ハ八田宗吉君外七名提出家祿賞典給與未濟ニ關スル法律案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス

ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、是ニテ議
事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程
ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是ニ
テ散會致シマス

午後五時散會

衆議院議事速記録第二十號中
正誤

頁段行 誤 正
三七二一四同時ニ、取ハ豫算同時ニ、又ハ豫算

